



千八百七十八年
新潟港留湯報告



3427



114
A 3142
23 82



大正十一年四月贈
鬼頭悳二郎 譯

千八百七十八年間新潟港英國領事貿易報告

余謹テ受ニ今當千八百七十八年十月三十一日迄ノ當新潟港貿易報告并ニ船舶出入報告ヲ呈スルヲ左ノ如シ

- 第一号 輸入貿易報告(外國人所有船舶ヲ以テマシモノニ係ル)
- 第二号 輸出貿易報告(前同断)
- 第三号 船舶出入報告

イ 印 英國并ニ英領諸殖民地ヨリ英船ヲ以テテ直接貿易表并ニ英國并ニ英領諸殖民地ニ英船ヲ以テマシ直接貿易表

ロ 印 自他諸國ヨリ英船ヲ以テセシ間接貿易表并ニ自他

諸國へ英船ヲ以テセシ間接貿易表

ハ印 日本國內の諸港場ヨリ英船ヲ以テセシ間接貿易表并ニ日本國內の諸海港場へ英船ヲ以テセシ間接貿易表

ニ印 諸外國船舶出入表

ホ印 日本船舶出入表

ハ印 外國船舶輸出入税其他外國船舶出入手数料等

千八百七十八年間當港ノ外國貿易高ハ乃テ左記ノ如シ

輸入 四萬四千三百十三弗

輸出 五拾二萬四千百六十七弗

輸出入合計 五十六萬八千四百八十弗

試ニ前書千八百七十八年間ノ輸出入合高五拾六萬八千四百八十弗ヲ以テ千八百七十七年(明治十年)間ノ輸出入合高ニ比スレ

ハ千八百七十八年ノ方實ニ五拾萬三千三百二弗ノ増加アリトス

依之千八百七十七年并ニ七十八年ノ兩年間ノ輸入ト輸出トヲ別ケテ増減ヲ示セハ即テ左ノ如シ

輸入

千八百七十八年 四萬四千三百十三弗

千八百七十七年 三萬六千八百七拾六弗

依テ千八百七十八年ノ增高ハ七千四百三拾七弗ナリ

輸出

千八百七十八年 五拾二萬四千百六十七弗

千八百七十七年 二萬八千三百二弗

依テ千八百七十八年ノ增高ハ四拾九萬五千八百六拾五弗

ナリ

輸入貿易ノ事

以上開陳スル如ク當千八百七十八年間ニ於テハ當港ノ外國輸
入貿易タル前年ニ比スレハ左ノ如ク改良ニ就カザリシトハ茲ニ
只僅ニ改良ヲ致セシハ自他諸海峽場ヨリノ再輸入ニ而已限ル
ヲ以テ新潟港内并ニ其近傍諸地ノ日本商人ノ外國製造品ヲ賣
買セシ高ハ前年ニ比スレハ稍多キニ至レリトス

凡ソ當地方ノ日本商輩ハ東京并ニ横濱ノ兩地ニ在ル重立キタ
ル日本商會ヨリ品物ヲ買入ル、ヲ以テ一層其益ト見做スノ色
アリ故ヲ以テ當地方ノ日本商人輩カ其品物ヲ買入ル、マ必ラ
ス當港居留ノ外商共ニ苟モ商品引取ノ約定申込等ヲナスナキ
ヲ常トス

當港ノ日本商輩ハ斯ノ如ク東京横濱ノ間ニ就キ當地方ノ需用ニ
適應スル物ヲ撰ミ凡百ノ品物ヲ買入ル、而已ナラス猶且ツ彼

ノ一種固有ノ慣習アリテ此等ノ品物ヲ運輸スルニ保險ヲ依頼
スルコトナキニ付保險料ヲ免ル、モノトス然ルニ當港ノ外國商
會等ト取引スルニ於テハ無論保險料ヲモ込メテ賣渡スカ故ニ
自ツカラ物價貴カラザルヲ得サルモノトス

斯ノ如キノ慣習在ルアリテ以テ保險ヲナサスシテ品物ヲ運輸
スル而已ナラス猶亦横濱ヨリ商品ヲ運輸スルニ當リ數頭ノ荷
馬ヲ所持セル者ト頗フル便益ノ内約ヲ取結ンテ以テ低下ノ運
賃ニテ運輸スルコト等間々アリトス凡ソ此等荷馬主輩ハ常ニ茶
生糸其他諸地方ノ產物ヲ日本南部ニ運輸スルヲ以テ其營業ト
ナスモノナリ

當千八百七十八年間ニアリテハ輸入物品何レモ非常ニ低價ニ
シテ折悪シク為損ノ損生ヲモ償フニ足ラザルコト等間々アリシ
ニ當地方ノ通用貨ハ只紙幣アル而已船積并ニ陸揚ケ入費其他運

賃保險料等若干在ルアリテ以テ殆ト口錢ヲモ餘マサバリシ程ナリ

上海繰綿ノ下

繰綿ハ本年初メノ程ハ壹ビコル付貳拾四ツ、ノ相場ナリシカ漸々減落シテ終ニ八月ニ至リ拾七四ニ下レリ然ルニ九月下旬頃ニ及ンデ再び騰貴シテ拾八四ニ上ホレリトス

該品ハ日本産ノモノ澤山アリシヲ以テ支那産ニハ毫モ需求勿リシ程ナリ當縣下ノ新綿ノ如キハ實ニ存外上出来ノ由ナリ木綿糸ノ下

右ハ拾六并ニ貳拾四号ノ上品物初メノ程ハ三ビコル詰メ壹俵ニ付百四四ヨリ百拾四ノ相場ナリシガ後々減落シ八月ニ至リテハ九拾八四ニ下レリ然レモ亦十月ニ及ビ一層需求アリテ百二四ヨリ百八四迄ニ至レリ

該品ヲ毎年日本商人ノ横濱東京ノ両地ヨリ當縣下ニ輸入シテ見附曾根長岡及ヒ村松ノ機織場ノ消費ニ供スルモノ實ニ巨額ナリトス

生金巾ノ下

右ハ八ポンド四分ノ一ノ量目ノ物貳四三拾錢ヨリ貳四六拾錢ノ間ニ昇降セリ然ルニ九ポンドノ量目ノ物ハ貳四五拾五錢ヨリ三四マデノ相場ニ至レリ

該品ハポンド四分ノ一ノ方ハ當千八百七十八年同中至テ取引少ナカリシガ九ポンドノ方ハ八九兩月中ヒ一層賣買アリタリ

小幅金巾ノ下
右ハ七ポンドノ量目ノ物壹四五拾錢ノ相場ニシテ實ニ七月以來ニ至リテハ空價モ甚タサルニ至レリ
七ポンド半ノ方ハ一月中ニハ壹四八拾錢ヨリ壹四九拾錢マデ

ノ相場ナリシカ爾来モ依然トシテ其相場ヲ保テリ
以上生金巾并ニ小幅金巾ノ両品トモ一旦買入レタル上更ニ當
地ニ於テ之レヲ滌ムルモノトス

然ルニ當年ハ東京ニ於テ深金巾ニ低價ニ買受ケ得ルヲ以テ前
書生金巾并ニ小幅金巾トモ大ニ取引小少ナリキ
緋金巾ノ下

右ハ貳ポンド四分ノ三ノ量目ノ物一月中志四八拾八錢ヨリ志
四九拾錢ナリシカ七月下旬ニ至ル迄毫モ需求ナク依然トシテ
其相場ニ止マレリ尤モ同月下旬ヨリ八月ハ掛ヶ志四八拾錢ヨ
リ貳四四拾錢マデニ至リ九月中ハ勿論其後ト虽モ其相場ハ只
空價ニ止マレリ

三ポンド四分ノ一ノ量目ノ物ハ一月中貳四五拾錢ヨリ貳四七
拾錢マデノ相場ニシテ七月下旬ニ至ル迄ハ需用至テ少ナカリ

リシガ八月中ニハ僅ニ騰貴シテ貳四六拾錢ヨリ貳四八拾錢マ
デニ上レリ

又該品ノ消費高ハ頗ブル小額ニ止マルモノトス
雲齋木綿ノ下

右ハ只三四ヨリ三四貳拾錢マデノ空價ニ止マリシ而已ニシテ
近来該品ノ賣レ高太々減小スルニ至レリ

天鷲絨ノ下

右ハ上等ノ分ハ一月中九四四拾錢ヨリ九四五拾錢ノ相場ナリ
シカ需求小少ニ止マリシヲ以テ終ニ減落シテ九四貳拾錢ニ下
レリ

又下等ノ分ハ八四五拾錢ヨリ八四六拾錢ノ相場ナリシカ是レ
モ下落シテ七月中ニハ八四三拾錢ニ下レリ

デランヤットノ下

右ハ八「ポンド」ノ分對ニ付一月中三四七拾錢ヨリ三四八拾錢
ノ相場ナリシカ其後モ矢張り同相場ニ止マリタルニ需求ハ小
少ナリシ

黒色「オル」エンズノ

右ハ上等物一月中七回五拾錢ナリシカ七月ニ至リテハ騰貴シ
テ八回五拾錢ニ上レリ。尔來八回五拾錢ノ空價ヲ依然トシテ保
テリ

下等物ハ一月中六回五拾錢ノ相場ナリシガ漸々騰貴シテ七回
五拾錢マデニ昇ホレリ

該品ハ上下ノ兩品トモニ未ダ賣レ残リノ品アル訳ヲ以テ其輸
入誠ニ僅カニ止マレリ

縮緬吳呂ノ

右ハ一月中五回五拾錢ヨリ五回六拾錢ノ相場ナリシガ其レヨ

リ段々騰貴ノ勢アリテ九月中ニハ六回二拾錢ヨリ六回三拾錢
マデニ昇ホリタリ

該品ノ内板深弁ニ遊仙ノ二品ハ消費高甚々僅カナレバ大ニ需
求アルハ濱縮緬ナリトス

錫延板ノ

右ハ一月頃ハ大分景氣ヨロシキ方ニテ七回五拾錢ノ相場ナリ
シガ舊仕入レノ分大分殘額ノアル譯ヨリシテ尔來下落シテ六
回五拾錢ニ下ルニ及ヒタリ

該品ノ内当地ニ於テ好ム品ハ夫ノ鐵著ケノ錫箱詰ノ分ナリ
支那産白糖ノ

右ハ品柄ニ依リテ夫々相場ヲ異ニヤリ先ツ一月中ノ相場ハ一
等ニテ拾回五拾錢ニ等ニテ九回二拾錢三等ニテ八回七拾錢四
等ニテ七回六拾錢ナリシ

然ルニ一等ノ分ハ供給高ノ多量ナリシカ為メニ爾來其相場昇
降ナリ依然トシテ存ヤシカ其他ノ分即チ二三四等ノ分ハ志
コルニ付志田ツ、騰貴セリ

臺灣赤砂糖ノ下

右ハ五回五拾錢ヨリ六回マデノ空相場立テシ而已ニシテ賣買
勿リシ其譯ハ日本製ノ黑砂糖ノ賣レ殘リシモノ未タ巨額アリ
タレ、バナリ

此臺灣砂糖ノ高價ニ至ルハ只日本製黑砂糖ノ不足ヲ告クル時
ニアル而已但シ當地ニテ重モニ消費用ニ供スルモノハ日本製
黑砂糖ニアリトス

掉鍊ノ下

右ハ小形モノ初メノ程ハ四回五拾錢ヨリ四回六拾錢マテノ相
場ナリシカル來漸々下落シテ四回ニ下リ終ニ亦七八兩月中ニ

至リテハ尚ホ拾錢引下ケトナリタリ

古鍊並ニ古鍊線ノ下

右ハ何レモ能ク需用アリテ可ナリ輸入額モアリタリ

該品ハ當地方中三條市ノ木戸、田島、燕、其他村上ニ於テ使用ニ供
スルモノトス凡ソ此等ノ諸地ニ於テハ大ニ釘并ニ鉄器類ヲ製
造シテ以テ日本國中ノ諸國ヘ向ケ輸出スルモノトス

條鉄并ニ圓鉄ノ下

右ハ何レモ只小額輸入セシニ過キス然ルニ鉄板ノ如キハ陸續
輸入額ノ増加スルアルカ為メニ漸次其相場下落シテ目下ノ相
場ハ志「コル」ニ付五回六拾錢ニ下トリ

輸出貿易ノ事

抑モ千八百七十二年ノ輸出貿易ニ比シ當年ノ分超越セシハ是
レ獨リ巨額ノ米ヲ輸出セシニ歸スルモノトス而メ其輸送セシ

場等ハ香港、支那諸海港、馬尼刺并ニ横濱等ノ諸地トナス畢竟斯
ク巨額ノ輸出アリシ、當地ノ米價ト此等諸地ノ米價トハ大ニ
相異アリシヲ以テ若干ノ利得ヲ占メ得タルニ由ルナリ
粗ト概算スル所ニ依レハ年々當港ト入り來ル米ノ高ハ百萬石
トナス右ノ内五拾萬石ハ北海道諸地ト回送シ、二十萬石ハ大阪
ト廻シ亦二十萬石ハ下ノ閑ト送ルモノトス残り凡ソ拾萬石丈
ケハ乃ケ當地ニ於テ消費用ニ供スルモノトナスナリ
凡ソ臨時意外ニ非常ノ需求ヲ生シテ供給ノ増加其レニ應スル
ニ足ラザル所ハ之レカ為メニ甲ハ若干ノ利得ヲ占ムレドモ乙
ハ亦夫レ丈ケノ損失ヲ被ムラザルベカラス
實ニ本年當港ノ米貿易ノ如キ即チ其適例ナリ抑モ本年ノ如キ
ハ外商輩意外ニ巨額ノ米ヲ買占メシガ故ニ日本ノ米商等ハ之
レカ為メ幾公カ損失ヲ被ムルニ至レリ其訳ハ本年ニ限り外商

ドモ意外ニ斯ル巨額ノ買入レヲナセシガ故ニ自ツカラ米價騰
貴セシヨリ此等日本米商ハ外商ト競争シ得ザリシニ由レバナ
リ
客歲中ニハ船舶三艘ヲ以テ當地ノ米ヲ充分積込去レリ然ルニ
右ノ内二艘ハ英船ナリシ若シ昨年貿易季節ノ遅延スルコトナク
尚ホ隨意ニ輸送スルニ適ヤシメタラハ右ノ三艘ニ止マラスシ
テ猶ホ外ニ亦米ヲ積去リタルナルバシ
然ルニ本年ノ如キハ昨年トハ變リ貿易季節一層早ク初マリシ
ヲ以テ第一船ハ四月十一日ヲ以テ當港ニ著セリ是レ實ニ英國
汽船「マリム」号ナリ
斯ク「マリム」号著港ノ後ハ間モナク諸外國ノ船舶陸續入り來リ
十月中旬ニ至ルハ絶ヘス米ヲ積込込去レリ實ニ十月中旬
英國汽船「エジソン」号ノ馬尼刺ト向ケ出帆セシモノヲ以テ最後

トス
抑モ客歳ニ於テハ米作上出来ナリシヲ以テ一月中ノ米相場ハ
引下ケク安ナリシガ春ニ至リテ漸々騰貴セリ是レ畢竟内外ノ
米高輩陸續之レヲ需求セシニ由ルモノトス
然ルニ六月ニ至リテハ最早現実之レヲ需求スルモノモ絶ヘ米
ノ賣買ハ一層米社ノ投機專賣買スル所ニ止マレリ
甬來連日ノ快晴ニテ新米ノ出来方上作ノ見込アリシヲ以テ米
價頻リニ下落セリ尤モ大阪東京等ノ相場引上ケノ為メ其外刈
上ケ初メ頃ニ折々雨天モアリシ等ニテ小々ツ、ハ昇降アリタ
リ
令別表ヲ呈シ以テ千八百六十九年ヨリ千八百七十七年ニ至ル
迄前後九ヶ年間ニ當新潟ニ於テ米價ノ昇降セシ割合ヲ閱覽ニ
供ス

余亦千八百七十七年十月ヨリ本年九月三十日ニ至ル迄當港市
場ノ相場ト米社ヨリ賣渡セシ相場トノ比較表ヲ添付シテ閱覽
ニ供ス
此米社ノ組成目的及ビ其營業等ノトニ付テハ猶ホ下文諸會社
ノ部ニ於テ一層詳細ニ論スル所アルヲ以テ今爰ニ於テハ僅々
左ノ事ヲ開陳スベシツハ他ナシ米社ノ米相場ハ頗アル變動ア
ル而已ナラス僅々二三ノ場合ヲ除ケハ其相場ハ常ニ市場ヨリ
モ少ナキハ二十錢多キハ壹圓方モ高價ナリシハ該表ヲ一目シ
テ瞭然タルコト是レナリ
抑モ二三ノ場合ニ於テ米社ノ米相場低下ナリシ原因、由其一
ハ米社ノ土蔵ニ積ミ置キシ米ヲ外商ノ買取ルコトヲ拒絕セシニ
由ルモノトス其然一所以ノモノハ他ナシ米社ノ検査役輩ハ其
米ヲ上等ノ物トセシト虽モ其実下等ノ品柄ナレバナリ

米社ノ營業タル實ニ純粹ノ博奕質ヲ帶フルモノニシテ毫モ米ノ市價ヲ變動スルニニアラス只米社ノ競賣ニテ年々販賣スル米額ハ新潟縣一圓米出來高ヨリモ遙ニ超過スルノ實事ハ以テ此米社ヲ右ノ如ク博奕商視スルニ足ルモノナリ
當千八百七十八年ノ初メヨリ九月三十日迄米ノ最高價ト最下價トハ即チ左ノ如シ

千八百七十七年十月十八日 壹石ニ付貳圓八拾五錢五厘
ヨリ二十六日迄ノ最下市價

千八百七十七年十月十五日 壹石ニ付貳圓九拾六錢五厘
ヨリ十六日迄ノ最下米社相場

千八百七十八年六月五日 壹石ニ付五圓五厘
ヨリ八日マデノ最高市價

千八百七十八年六月三日ヨリ

四日迄ノ最高米社相場 壹石ニ付五圓七拾三錢五厘

洪水ハ米作ニ災害ヲ及ボス實ニ甚シク随テ重稅ヲ賦課セラル、百姓ニ取リテ非常ノ損失ヲ被ムラシムルモノナルニ近州河水暴漲ノ患ニ少ナキハ殊ニ放然ノ至リナリ

當縣下ニ大洪水ノ起リシ内最後ノモノハ實ニ千八百七十五年ノ分是レナリ

余カ得タル報ニ由レハ此棍政府ニ於テハ來年一月一日ヨリ以後悉クコレニ付拾ヤシトツ、ノ輸出稅ヲ輸出米ニ賦課スルノ廟議アリトス果シテ此棍政府ノ此舉ヲ實際ニ施行スルアラバ當新潟港ノ米輸出貿易上ニ非常ノ運動力ヲ添エル所アルハ期シテ族ツベキ而已

茶ノ下
右ハ横濱ノ相場低下ナリシヲ以テ本年其收穫大ニ衰減シテ製

茶人輩ハ下等茶ヲ摘ムノ費ヲモ拂フニ足ラザリシ程ナリ
當港ニハ臺モ茶ノ産メナカリシヲ以テ製茶人輩ハ三菱汽船ニ
積込ミ併ヤテ亦陸路ヲモ經テ以テ其製茶ヲ日本南部へ回送セ
リ
當新潟瀧港ノ近接地方ニ影多ノ茶樹生育スルヲ視レバ夫ノ北緯
三十六度以外ノ地ニハ夜令テ茶木ノ成長スルモ利得ナキトノ
言ハ誤謬ニ出ルヲ証明スルニ足レリ
此地方ノ氣候ヲ手短ニ略載スレハ即ケ左ノ如シ南方并ニ南西
方ノ夏風アリテヨリ北へ向ケ僅ニ潮ノ流ル、アリトス夫レヨ
リ漸々溫度ヲ増スヲ常トス
又冬分ハ大概十二月中ニ北方并ニ北西風ニ初マリテ續テ大雪
降り来リ漸々温去リ寒加ハリテ以テ一月下旬若クハ二月下旬
頃ニハ嚴寒ニ至ルヲ常トス

其レヨリ暫クシテ漸ク暖氣ヲ催スモノトス然レバ北方并ニ北
西方ノ風ヨリ大雪吹来リテ正午頃寒暖計ノ六度ヨリ九度マデ
ニ至ルコト間々アリトス斯ク北方并ニ北西風ノ吹キ續クハ大抵
三月下旬ヲ以テ終リトナス爰ニ於テカ初メテ冬去春来ルト云
フ
凡ソ春分ハ概シテ氣候暖和ナリ夜令ニ折々ハ暴風吹キ来リ寒
冷甚シキトモ之レナキニアラスト虽レ一天晴レ渡リ若クハ小
々曇リ空ニテモ暖和愉快ノ時節ナリトス
又五月中旬ヨリ九月下旬ニ至ル迄ハ夜令ニ酷暑ニハアラザレ
氏暖氣ナリ又風ハ南風ナリ
七月八月ノ兩月中ニハ雷鳴暴風雨等鮮ナカラス然レバ當港近
傍ニ於テハ雨勝テ時節ナシ十月ヨリハ天氣寒冷ニシテ南西
風ノ吹キ来ルト共ニ晴雨変スルモノトス

抑モ当地ノ雪積ムト地上少ナキハ四尺ヨリ多キハ八尺ノ深サニ及フアルヲ以テ^大樹ノ為ニ冬至頃ノ嚴寒ヲ大ニ防クアルハ毫モ疑ヲ容レズ

斯ク積雪以テ茶樹ヲ蔽ヒ嚴寒ヲ防クモノ春ニ至レハ暖ク南風吹来リテ積雪忽チ散リ去ルモノトス然リ而シテ漸々春ノ月日ヲ過キ去ルニ隨テ其萌芽ヲ養育スルモノトス

当地方ノ地質ハ白堊質ノ粘土ナリトス而シテ廣野ノ上部ニアル産茶地ノ如キハ當新潟ヨリ凡ソ二十五英里モ隔リタル山脈ヨリ海邊ニ廣ク位置ヲ占ムルヲ以テ大河ノ在ルアリテ能ク水ヲ濯キ得ルモノナリトス

當地方茶樹ノ繁茂生育ノコトニ付テ以上ノ如ク詳細叙述セシガ其能ク生育スル所以ノモノハ即チ左ノ原因ニ由ルベシ第一ニハ嚴寒ノ打續グコナキコト第二ニハ水ノ供給充分ニシテ而シテ春

分ノ天氣廻リ能ク夜分霜ノ降ルコトナキコト第三ニハ夏分暑熱打續キ折々清雨アルコト第四ニハ秋分程能ク暖氣ニシテ其間ニ茶樹充分ノ花盛ニ至ルコト是レナリ

凡ソ産茶地方ハ品柄ノ優劣ニ因テ列載スレバ村上村松黒川新津五泉及ヒ立川ノ諸地ナリ

村上ニ於テハ巨額ノ上等茶ヲ産スルモノトス然ルニ村松産ノ方其全局ニ就テ論スレバ却テ外國市場ノ好ム所トナルナリ

日本人ノ視ル所ニ由レバ村上産茶ヨリモ却テ黒川産ノモノヲ以テ優等品トナスト虽氏外國人等ハ此等村上黒川ノ兩地産ノ

茶ニ就キ別ニ兩品ノ間ニ區別ヲ立テス凡ソ毎年當諸地方ニ於テ上中下數種ノ茶ヲ合セテ産出スル高

ハ平均五十万^{ポンド}前後ニ居ルモノトナス漆器、コ

此品ハ漸々需求ノ減少スルアルヲ以テ当地ノ貿易高実ニ僅々ニ止マレリ

銅ノ下

右ハ凡ソ久佐倉銅山ヨリ産出セシモノハ當年ハ皆已ニ東京商人ハ條約取結濟ミノ分ニ係リシヲ以テ東京へ向ケ何レモ輸送セラル、所トナリタリ村松近傍并ニ八彦山接近ノ地ニ於テモ新銅山ヲ開鑿セシ所マリ然リト虽氏猶ホ今日ニ至リテモ未タ事業充分ノ運ニ至ラス頗フル微々タルモノナリ然ルカ故ニ其供給高モ随テ小少ニ止マレリ尤モ其鑛ハ極メテ美質ノモノナリト云フ

石炭ノ下

赤谷石炭坑ハ阿賀ノ川ヲ距ル凡ソ二英里半ニ在ルカ故ニ不相替其事業充分ノ運ニ至リ石炭モ極メテ美性ナリトス夫レ然リ

然リト虽氏目今ニ於テハ此石炭坑開鑿ノ事業ヲ大ニ起スノ意ナキカ如シ然ルヲ以テ年々産出スル額量モ僅小ニ止リ随テ只地方ノ需求ニ應スルニ足ル而已

石炭油ノ下

一時ノ豫想トハ大ニ反對シテ此石炭油ハ今日ニ至ルモ未タ輸出ノ一品トナラス

石炭油ノ年々産出スル高ハ未製ノ分ニテ凡ソ八拾萬「ガルロン」ト「カルロン」ハ凡ソ我ニ升ニ合ニ当ル前後トス之レヲ現行ノ製法ニ依リ粗製シタル上ニテ「カルロン」ニ付凡ソ「志」シ「ル」リ「ン」グ「ツ」ハノ賣上ゲヲ常トス

然ルニ容歳中俄然其市價騰貴シテ百「ガルロン」ニ付三「ポンド」拾「シル」リ「ン」グ「ヨ」リ「ハ」ニ「拾」シ「ル」リ「ン」グ「マ」デニ至リシ「ア」リ「タ」リ是レ畢竟菜種油ノ不足セシニ由ルモノトス

為換相場ノ丁

抑モ為換相場ノ丁タル全ク当地ノ関知セザルモノナルガ故ニ
此事ニ付テハ一言ヲモ吐露スル能ハス

當地ニ流通スル貨幣ハ獨リ紙幣アル而已ニシテ金銀ノ兩貨ノ
如キハ今日ニ於テモ決シテ流通上ニ見ルヲナシ依テ余思フニ

實ニ当新潟縣ノ全管下ニハ二十五回ノ金銀貨モ流通上ニアラ
スト確言シ得ルナリ

當千八百七十八年間ニ英船ノ當港へ出入セシモノハ千八百七
十七年ニ比スレバ其艘數モ噸數モ兩ツナガラ増スモノ大ナリ

令試ニ右兩年間ノ出入ヲ左ニ比較セン
千八百七十七年ノ分

入船

水夫二十一名 艘數二艘 噸數六百二噸四分ノ三

出船

水夫二十一名 艘數二艘 噸數六百二噸四分ノ三

千八百七十八年ノ分

入船

水夫二百三十四名 艘數九艘 噸數八千九百四十二噸

出船

水夫二百三十四名 艘數九艘 噸數八千九百四十二噸

千八百七十七年ヨリモ七十八年ノ増スモノ入船艘數七艘噸數
八千三百三十九噸四分ノ一ニシテ出船モ亦艘數ノ増スモノ七

艘噸數ノ増スモノ八千三百三十九噸四分ノ一ナリ
當千八百七十八年間ニアリテハ内地陸路廻シノ分ハ誠ニ僅小

ニ止マリシト虽氏斯ノ如ク數艘ノ船舶入り来リテ以テ一切諸
荷物ヲ海路ニ取レリ試ニ當港駐劄前副領事ツループ氏カ上呈

セシ千八百七十六年間ノ新潟貿易報告書中ニ載録セシ船舶出入表ト比較スルアラバ當千八百七十八年間ノ噸數ハ千八百六十九年新潟港開港以來今日ニ至ル迄ノ内何レノ年間ノ分ニモ遙ニ超越スルアルハ一目瞭然ナルベシ
本年ハ英船ノ増セシ而已ナラス自他外國船ノ出入モ亦非常ニ増加セリ其然ル所以ハモノハ他ナシ千八百七十七年間ニハ僅ニ丁抹國船二百九十七噸積ノモノ一艘當港ニ入船セシ而已ナリシニ本年ハ諸國ノ船舶合セテ七艘入港シテ以テ其積込荷物ノ多キ四千九百四噸ノ多キニ至リタレバナリ
諸外國船ノ入港増加セシ而已ナラス亦三菱會社ノ汽船并ニ帆前船トモ其入港艘數大ニ増加セリ其船舶ノ當港ニ入船セシ分決シテ十九艘ヨリ少カラスシテ噸數ハ總額一萬七千八百八十噸ノ多キニ及ボヤリ

凡ソ三菱會社ノ船舶斯ノ如ク當港ニ入船スルモノハ大縣横濱ヨリ海路ヲ越中伏木ニ取り箱館ヲ經テ當港ニ入港シ歸路モ亦当地ニ寄港スルモノトス然レモ近來ニ至リテハ環海航路ヲナスノ新法用ヒラル、ニ至リタリ
己ニ去月ノ如キハ同時ニ二艘ノ汽船ヲ泊船場ニ目撃セリ右ノ内一艘ハ神戸下ノ関ヲ經テ當港ニ着セシモノニシテ歸路ハ箱館ヲ經テ横濱ニ向フモノナリ然ルニ残り一艘ハ右ト全ク反對ノ航路ヲ取ルモノナリ
斯ノ如ク三菱會社ノ船舶陸續出入スルアリト虽モ此等汽船ノ運轉極メテ危險ノ恐レアルハ是レ積込人ト商人トニ取リ実ニ重大ノ妨碍トナルモノナリ
抑モ當港ニアリテ三菱會社ノ取次ヲナス者ガ毫モ船舶積込ノ事業ニ經驗ナキヲ以テ不便ヲ醸ス小少ナラザルニ以後亦運賃

ノ割合ヲ不當ニ引上ケルコトアルニ於テハ却テ運賃等低下ノ日
ニ於ケルヨリモ利得ニ至ラザルヤ容易ニ視易キ而已
今ニシテ若シ此等汽船ノ運轉等ニ付キ一層規律ヲ設ケ彼是レ
相連スルコト勿ラシメ併セテ相当ノ運賃ニ引下ケ且ツ船積陸揚
ゲノ時日等ヲ一層寛ニスルアラハ獨リ該會社而已ナラズ該社
ニ依頼シテ品物ヲ回送スル人々ニ取リテモ利益ヲ生スルヤ疑
ヲ容レス

近頃入港セシニ艘ノ汽船トモニ大ニ其運賃ヲ引下ケ志ビコル
ニ付三十五セントヨリ六十セント方モ低廉ナルニ至リシハ實
ニ真ナリ然リト雖氏斯ク運賃ヲ引下クルノ期餘リ遅延セシヲ
以テ仮令ヒ低廉ニ至リシモ其レガ為メニ當港ノ商業取引上ニ
著ルシキ影響ヲ来ス程ノ勢ニ至ラザリキ

當千八百七十八年間ニ三菱汽船ヲ以テセシ輸出入表ヲ爰ニ添

付シテ以テ閱覽ニ供ス凡ソ此等凡百ノ品物ハ當港ヨリ日本國
内ノ諸港へ輸出ヤシモノト此等諸港へ輸入セシモノトニ係ル
運賃ノ一

横濱ヨリ當新潟港マデ蒸汽船ナレバ志噸ニ付運賃八「ドル」ラ
ヨリ拾「ドル」ラマデノ間ニ昇降シ帆前船ナレバ五「ドル」ラヨ
リ六「ドル」ラマデノ間ニ止マルモノトス

扱又凡ソ拾二萬「ピコル」ヨリ拾四萬「ピコル」マデノ荷ヲ積込ム船
船ハ積込陸揚ケノ日數ヲ平均シ汽船ニテモ帆前船ニテモ五月
ヨリ十月初旬ニ至ルマデハ拾日乃至拾五日間ニ着船スル
ヲ常トス然ルニ五月以前トカ若クハ十月上旬以後ニアリテハ
右ノ外ニ猶ホ五ケ日間ツ、日數ヲ加フルモノトス
凡ソ四月上旬前若クハ十月下旬以後ニ至リ船舶ヲ當新潟港ニ
入津スルハ策ノ得タルモノニアラズ其然ル所以ハ他ナシ冬分

ノ間ニハ晴雨甚ダ定マラスシテ暴風雨勝チナレバナリ
新潟港湾ノコト

新潟港湾ノコトニ付テハ余ハ勿論前領事オモ已ニ充分意見ヲ聞
陳セシ所アリタレバ今復々其事ニ論及スルハ徒ニ重複ヲナス
ノ恐レカアレドモ猶ホ此事ニ付テ一層公明正大ニ問陳スル所
アラント欲シ余ハ今亦此港湾ノ問題ニ付聊カ卑見ヲ述ベント
ス

新潟ノ港湾ハ年々悪シクナルト云フ程ニハアラザレドモ平生
ノ如ク矢張り良カラス然レモ此地ノ緊要缺クベカラザルノコ
近來充分ニ人ノ承認スル所トナリテ幸ナル哉不日二名ノ外國
土木師當地ニ來リ大ニ全般ノ改良ニ着手スルノ積ナリ是レ此
事ハ已ニ是レ迄久シク中央政府ノ深思萬考セシ所タリ
此港湾修繕ノ用途ニ充テル為メ已ニ巨額ノ資金ヲ供備スル所

トナリタリサレバ他日若シ此工業果シテ奏效スルノ日ニ至ラ
バ今日ノ淺キ港湾忽チ一變シテ信濃川ノ川口十八尺ノ深サニ
至ルハ期シテ俟ツベキ而已現ニ目下ハ信濃川口ノ水勢僅々五
尺五寸ヨリ九尺マデニ止ル實ニ此等工業ノ果シテ效ヲ奏スル
ニ至ラバ其結果ハ大ニ改良ヲ來シテ以テ並形ノ海航蒸汽船ヲ
シテ信濃川ノ内ハ入ラシムルニ適スルニ至ルハ毫モ疑ヲ容レ
ス
凡ソ斯ノ如ク港湾淺ク泊船場ノ四面掩フモノナキ海港ニアリ
テハ是非百般ノ困難事ヲ免レサルベキニ今日迄ノ經驗ニ依レ
ハ三月下旬ヨリ十月中旬マデハ仮令ニ帆前船スラ毫モ危険ニ
陥ルコトク難ナク当港ニ入船シ得ルヲ証スルニ足レリ又難風
激波ノ為メニ空シク時日ヲ費ス等ノコトナクシテ荷物ヲ船積ミ
陸揚ゲシ得ルモノトス

凡、此等船舶ハ信濃川ノ入口ニ設ケアル小燈明臺ヨリ東ニ隔
 ル遙カナラス南東ニ方リテ水ノ深サハ尋ノ所ニ可ナリノ碇泊
 場アル

余爰ニ別表ヲ捧呈シテ凡ソ當港ニ入津セシ船舶ガ千八百七十
 年ヨリ千八百七十四年ニ至ル迄毎年間ニ充公容易ニ其荷物ヲ
 船積ミ陸揚ケシ得タル日数ノ平均ヲ閱覽ニ供ス次表ノ如キハ
 千八百七十七年間中ニ穩和ノ好天氣ニシテ港湾ノ波濤靜穩ナ
 リシ日ヲ揭示スルモノニ係ル是レ此表ノ如キハ前書ノ日數表
 ヲ論スルニ於テハ猶ホ一層裨益スル所アルモノトス

日數

一月	九日
二月	十一日
三月	七日

四月	十九日
五月	二十一日
六月	二十四日
七月	十八日
八月	十八日
九月	十八日
十月	九日
十一月	六日
十二月	十日

因是觀之曾テ偏見僻說ヲ吐キ新潟港ハ船舶出入ノ便益ヲ見ル
 ベカラストノ思想ヲ唱ヘシ者今ハ全ク散失セシナルマシサレ
 バ別ニ異変ナケレバ以上列載セシ日月中七ヶ月間ハ自他ノ良
 港ニ於ケルト全様ノ速力ヲ以テ船舶ヲ出帆シ得ルハ固ヨリ論

ヲ 疾タスシテ明カナリ

燈明臺ノ

燈明臺ノ位置ハ信濃川ノ入口ニ設ケアリテ今日ノ久シキニ至ルモ昔日初メテ新潟港ヲ外國貿易ノ為メニ開キシ時ノ如ク一時假リニ設ケシモノナリサレバ其設置ハアレ臺モ用ニ供スル所ナキト云フモ可ナリ

其燈明ハ小ニシテ且ツ暗シ故ヲ以テ英國一汽船ノ船長曾テ余ニ語テ曰ク相應ノ暗夜ニ當港ニ著船セシ時船長ハ未タ礁標ヲ見出シアタハザリシ前ニ早ヤ港灣ニ波浪ノ動揺スルヲ聞キシト

海上保險ノ

凡ツ港灣ノ危険并ニ端船ノ危険等ハ當港ニ付與スル保險証書ニモ亦當港ヨリ付与スル証書ニモ嚴ニ算入セザルコト今日尚ホ

昔日ノ如シ然リト虽モ若シ此等保險會社ニシテ左ノ一事ニ付少シク思フ所アラハ貿易上ニ取リ此至大ノ妨碍トナルモノハ忽チ消散スベシソハ他ナシ凡小汽船初メトシテ端船等ヲ管スル人々ハ只經驗アル水夫トカ若クハ漁獵師トカニテ成程場所天氣等ノコトハ頗ラク熟知シ居レモ未タ曾テ一回ガモ稍暴風激波ノ日ニ港灣ヲ渡ルコトモナカリシ人々ナルコトヲ顧慮スルコト是レナリ

若シ此等保險會社ニシテ能ク此理ヲ悟リ少シク爰ニ顧慮スル所アラハ必スヤ猶豫スル所ナク此等ノ危険ヲモ見込ンテ以テ會社ニ取リ此後大ナル危険ヲ被ムラシムルコト勿ラシムバシ随テ亦當港ノ積出人ヨシテ自他諸港ノ積出人全様ノ位置ヲ履マシムルニ至ルベキナリ

當千八百七十八年ノ全年間ニ軍艦二艘當港ニ入津ヤリ内一艘

ハ英船一艘ハ佛船ニ係ル

諸事概況

新潟ハ日本全国中目下新潟縣管下ノ重モナル都會ニシテ其位置ハ北緯三十七度十五分ニ起リ三十八度三十分ニ終ルモノトス而シテ東經百三十七度三十分ニ始リ百三十九度四十分ニ終ルモノトス

其管下ハ津川一小地ヲ除キ新潟全地ト佐渡島トヲ合セテ全轄ス又其面積ハ六千方英里ニ滿タスト云フ其國ノ縱最モ長キハ二百十英里ニシテ其幅最モ廣キハ四十七英里ナリトス縣下ヲ別ツテ七郡トナシ亦郡ヲ小別シテ大區小區及ヒ組合トナス其數一ハ二萬五千二百二十九一ハ千八百二十二ナリ大區ノ長ヲ大區長ト稱シ小區ノ長ヲ副區長ト唱ヒ組合ノ長ヲ戸長ト云フ

当新潟縣下ハ非常ニ山勝チノ地ナリト雖モ又砂勝チノ粘土質ナル廣田ノ海濱ヨリ内地ニ擴ルコト凡ソ二十五英里位ツ、ニシテ仮令淺瀬トハ云ヒナカラ數流ノ在ルアリテ以テ能ク田面ニ水ヲ濯クニ足リ諸米穀能ク成育スルモノトス

金銀銅其他鉛石炭山等山中ニ在ルモノ數多ナリト雖モ目下現ニ開鑿ニ從事スルモノハ僅ニ佐島相川ノ金山ト赤谷ノ石炭山ト此二者アル而已

余相川金山ノ事ヲ取調ベント欲シ全所所長安達氏ニ依頼シタレモ何分礦山局ノ許可ヲ經ザレハ詳細ノ件ヲ余ニ開示スルヲハザルトノコトニテ成程隨分尤モノ断リナレバ此相川金山ノ事ニ付テハ報告スルアタハス此相川金山タリ今日ノ久シキニ至ル迄非常ノ遷延ヲ經非常ノ巨費ヲ投シテ漸ク今日ノ如ク工業善良ノ域ニ至リタルト云フノ外他ニ開示スルアタハス

赤谷石炭山ノ位置ハ当新潟縣ノ北東隅ニアリ而シテ曾テ余カ
聞知スル所ニ由レハ此赤谷産ノ石炭ハ頗フル美質ノモノナリ
ト云フ斯ク美質ノ石炭阿賀ノ川ノ極近傍ニ於テ澤山ノ産出
ハアレ氏黑色硬質ノモノハ極メテ小々ツ、出ル而已サレバ実
ニ此石炭ハ漸ク地方ノ需用ニ應スルニ足ル而已
最後ノ取調ニ依レバ新潟縣管下ノ人口ハ百五十萬三千百七十
四名ナリトス右ノ内男七十五萬千九百九十五人、女七十五萬千
百七十九人ナリ
又戸數ハ三十萬千二百八十四戸ナリサレハ一戸ニ付四人九五
ノ平均ナリトス
叔又新潟全管下ニ在ル寺ノ員數ハ二千九百五十五戸、僧侶ノ員
數ハ三千八百四十八人、神社ノ數ハ五百四十四社、神官ハ四百四
十三名ナリ

當新潟縣全管下ノ歳入高ハ總計貳百貳拾八萬四即チ英貨ニ引
直セハ四拾壹萬八千封度ナリ此歳入高貳百貳拾八万四ノ内貳
百拾貳万四即チ英貨ニ三拾八万八千貳百五拾封度大ケハ之レ
ヲ地租ノ用ニ供スルモノトス又年々ノ歳出費ハ凡ソ五拾七萬
三千四百四即チ英貨ニテ拾萬五千百貳拾三封度ナリ又此ノ外
ニ地方稅凡ソ六拾万八千七百四即チ英貨ニテ拾壹万五千五百六
十封度ナリトス
農産製造并ニ殖産ノ行
最後ノ測量取調ニ由レバ新潟縣全管下ノ田畑ハ五拾九萬四千
四百「エ」一「ク」ルナリトス右ノ内三拾八萬五千九百「エ」一「ク」ルハ米
田ニシテ貳拾八萬八千五百「エ」一「ク」ルハ麥作其他ノ用ニ供スル
モノナリトス
右ノ外尚ホ林地凡ソ貳萬貳千五百「エ」一「ク」ルアリトス

田畑ノ價ハ一ニ其地質ト位置ニ由リテ高低アリトス近報ニ由
レハ米田ノ地價ハ志「エ」ク「ル」ニ付三十壹封度拾「ル」リ「ン」グ「ヨ」
リ三拾貳封度マデノ高低アリ其他ノ田畑ノ如キハ志「エ」ク「ル」
ニ付拾壹封度ヨリ貳拾六封度マデノ間ニ止マルモノナリトス
諸市ノ家作建築用ニ供スル地面ハ六尺四方ニ付五「バ」ン「ス」半ヨ
リ拾貳「バ」ン「ス」拾「フ」ロ「ゼ」ン「グ」マデノ高低アリ又村落ノ家作建
築用地ハ六尺四方ニ付一「バ」ン「ス」半ヨリ一「バ」ン「ス」ニ「フ」ロ「ゼ」
ン「グ」ノ間ニ止マルモノトナス
抑モ當新潟縣下ハ日本帝國中最モ巨額ノ米ヲ產出スル地ナル
而已ナラス猶且ツ其他ノ諸產物又擧ケテ數「フ」バ「カ」ラ「ス」其外ニ
亦各種ノ製造工業等アリトス
新潟縣下ノ利源ニ付聊開示スル所アラシカ為メ即チ別表利源
比較表ヲ封入送呈シテ以テ閱覽ニ供ス

裁判所并ニ警察ノコト

當新潟縣下ニ在ル法庭ハ其數十一ヶ所ナリ即チ裁判所一ヶ所
其支廳三ヶ所ニシテ此等ハ何レモ新潟縣全管下ノ諸事ヲ裁判
スルモノトス而シテ其他ニ區裁判所ナルモノセケ所アリテ以テ
其區内民刑ノ兩事ヲ裁判スルモノトス新潟裁判所々長ハ堤正
己氏ニシテ其他屬官數十名アリテ裁判事務ヲ務ム
余爰ニ別表ヲ送呈シテ以テ抑モ現行ノ裁判律制定以來當縣下
ニ於テ裁判セシ訴訟ノ負數ヲ閱覽ニ供ス
當縣下ニ代言人ナル者十九名アリテ以テ凡ソ此等ノ法庭ニ出
テ、訴訟ノ代言ヲナシ代言免許料トシテ一ヶ年ニ拾四ツ、ヲ
納ムルモノトス
凡ソ此ガ代言人ハ先ツ其免許ヲ得ル前ニ日本ノ法令并ニ訴訟
規則等ニ就キ一通リノ試験ヲ經ルノ成規ナリ

扱又一旦身代限ヲ申付テラレタル者并二百日以上ノ懲役ヲ受ケタル者ハ代言人トナルヲ許サレザルモノトス

當新潟縣下ノ巡查ハ其人負二百四十八名捕吏二十八名ナリ毎年此等ノ用途ニ供スル定額金ハ五萬三千四即チ英貨ニテ九千七百十六封度拾三「シルリング」ナリ尤モ此^五萬三千四ノ費額中ニハ凡ソ屯署十四ヶ所、交番所二十七ヶ所ノ修繕建築費等ヲモ無論算入スルモノナリ

郵便ノ下

當縣下ニハ新潟港ニアル當越後國內ノ郵便本局一ヶ所ヲモ合セテ二百三十四ヶ所ノ郵便役所アリ然リ而シテ日々ノ配達方等能ク行届キテ毫モ刻限ヲ違ヘル等ノ患ナシ

燈明臺ノ下

當新潟縣下ニ燈明臺ノ設ケ四ヶ所アリ内一ヶ所ハ新潟港ニ在ルモ

ノニシテ信濃川ノ入口ニ設置セルモノ乃チ是ナリ一ヶ所ハ出雲崎近傍尼瀨ニアリ一ヶ所ハ寺泊ニアリ残り一ヶ所ハ今町ニアリ新潟港ノ燈明臺ハ一時假リニ設置セシモノニシテ毫モ燈明ノ用途ニ供スルニ足ラザルモノトス

病院ノ下

病院ノ内ニテ巨擘ナルモノハ乃チ新潟港ニ設置セル一病院ナリ其外當縣下諸地方ニ同様ノ小病院八ヶ所アリ其内ニテ一層緊要ナルハ長岡病院、柏崎病院并ニ高田病院ノ三者ナリ

梅毒病院ノ下

當縣下至ル所此病院設ケナキノ地ナシ現ニ目下十三ヶ所ノ市町ニハ何レニモ此設ケ一ヶ所アリテ市中ニハ娼妓渡世ノ家数多アリトス

種痘ノ下

種痘ノ初メテ當越後國ニ行ハレシハ實ニ今ヲ去ル九ツ三十年

以前ノコナリ然ルニ幕府ノ政代ニハ夫ノ恐ルベキ流疫痘瘡ヲ防グベキノ法ヲ毫モ顧慮セザリシモノ、如シ然ルニ近來ニ至リ大ニ種痘ヲ施スニ至リタレバ近代當國ニ於テ百般便益ノ变革アリシモノ、内ニ此種痘ノ開ケシコヲ載セスニハアルベカラス抑モ今日ノ如ク普ク管下ニ種痘ヲ施スニハ初メノ程ハ非常ノ壓制ヲ行フヲ要セリ何トナレバ最前ニアリテハ舊習猶ホ去ラズ偏見僻説ヲ主張スル者少小ナラザレバナリ然レモ當今ニ至リテハ當縣近傍ノ人民ハ一般ニ衛生豫防ノ緊要欠クベガラザルモノナルコトヲ承知セシモノ、如シサレバニヤ下等社會ノ貧民等ハ目下當地現行ノ施療種痘ヲ悦テ受ルノ色アリトス千八百七十七年六月三十日ヲ以テ終ル一周年間ノ官報ニ依レハ種痘ヲ受ケシ者ノ人數五萬二千二百十八名ナリトス

教育ノコ

新潟縣下ハ第六大學區ナリ當縣廳ノ厚意ヲ以テ余ニ寄贈セラレタル近板ノ表ニ由レバ當縣管下ニハ六歳ヨリ十四歳ニ至ル男子拾壹萬三千三百三十七名ニシテ女子拾萬四千八百八十三名ナリ右ノ内ニテ男子五萬六千八百三十一名、女子一万千三十六名大ケ九百四ヶ所ノ小学校ニ入学シテ教育ヲ受クルモノナリトス此外ニ六歳以下ノ男子猶千三十四名、女子三百十三名アリ又十四歳以上ノ男子二萬二千二百二十二名、女子七十七名アリ此十四歳以上ノ分ハ諸所ノ學校ニ入門シテ讀書ヲ脩ルモノナリトス當縣下ニハ亦私學校ノ設ケ三ヶ所アリ其生徒ノ負數九十四名ナリ猶ホ亦目下中學校ノ設ケ四ヶ所アリ(相當ノ數ハ九ヶ所ナリ)其生徒二百二十一名ナリ、師範學校一ヶ所アリ其生徒百三十五名

ナリ、外國語學校一ヶ所アリ其生徒九十七名ナリ、又化學學校一ヶ所アリ其生徒三十二名ナリ

全縣下ニアル公立小學校ノ教師總負數千九百五十六人ナリ右ノ内四十三名ハ一等、二十名ハ二等、千八百六十七名ハ三等ニシテ残り二十六名ハ女教師ナリ

諸地方ノ

當新潟縣全管下ニハ市町五十四ヶ所、村落四千四百二十ヶ所アリ地方ノ役吏其負數五千八百三十二名ナリ

凡ツ市町ノ中ニ就テ最モ大切ナルモノハ新潟ナリ其レニ亞クハ高田ナリ其人口一万七千三百七十八名ナリ其レヨリ長岡ナリ其人口一萬三千三百四十九名ナリ其次ハ三條、新發田、相川ノ三市ナリ此等ハ何レモ其人口一萬千人餘ナリ其次ハ柏崎ナリ其人口一萬九百五十七名ナリ

右ノ外ニ猶ホ市町アリ其内十一ヶ所ハ何レモ其人口ハ五千人ヨリ九千人ノ間ニ止マルモノトス又残りノ市町ハ何レモ五百人ヨリ四千人ノ間ニ止マルモノトス

扱又村落ノ中ニテ最モ大村ハ大久保村ニシテ其人口三千九百二十三名ナリ又最モ小村ハ田上村ニシテ其人口ハ一村擧テ僅ニ百二十六名ニ過キス

道路并ニ街道ノ

道路ノ便ヲ開キ交通ノ途ヲ擴メテ以テ當新潟港四圍ノ諸地方ノ景況并ニ其人民ノ狀況ヲ進歩改良セシメンカ為メ近年ニ至リ稍其事ニ心ヲ寄スル所トナリタリ

サレバニヤ道路街道トモ陸續修繕ヲ行フモノ實ニ莫大ナリ實ニ當新潟ノ極々近傍ニ於テハ道路極メテ改良ニ就キ當港ヲ距ル凡ソ二十二英里ノ八彦ト當港トノ間ニ已ニ飛脚馬車日々往

復スルニ至リタル程ナリ

夫レ當新潟港近傍ノ道路ハ斯ク善ク修繕整へ改良ニ就キシト
ハ虫氏猶ホ未タ修繕ノ手廻ラザル分甚々多ク
抑モ今日ニ至ル迄ニ全ク損得等ノ考ナク巨額ノ費途ヲ重モナ
ル諸大道ニ投セシモノ少ナカラザレバ幸ニ之レカ為メニ永續
利ヲ得ルノ策ヲ深思先考スルコソ實ニ今日ノ急務ナリ
現状ニ依レハ僅々一等道路等ヲ除ケハ田舎ノ道路ニ至リテハ
今尚ホ慘状ヲ極ハメ雨天ノ節ニハ到底通行シ難キ程ナリトス
當縣下ノ中重立チタル市町ハ多ク無月ノ暗夜ニハ市街點火シ
テ以テ大ニ諸人ノ夜行ニ便ナラシムル所アリ其故何トナレバ
彼ノ日本産ノ石炭油ヲ用ユル燈明漸次行ハルニ至リタレバ
ナリ

新潟港ノ了

新潟港ノ人口ハ近年ノ取調ニ依レバ三萬三千九百二十七名ナ
リトス右ノ内一萬五千七百七十六名ハ男ニシテ一萬八千五百
十一名ハ女ナリ尤モ右ノ三萬三千九百二十七名中ニハ入港和
船凡ソ二千五百艘ノ寄港人ヲ算ハセザルモノトス
又新潟港ノ戸數ハ戸數ハ九千八百十六戸ナリ依テ一戸ニ付平
均三人四五ノ割合ナリ而シテ其市中ハ一里四方餘ナリ

新潟港内ニハ十九名ノ地方官吏アリテ以テ港内諸區内ノ事務
ヲ管理ス又巡查七十五名捕吏等十名アリトス
當港ハ市街清潔ノ聞令猶ホ存スル丈ケニ街衢皆廣ク且ツ能ク
掃除行届キテ冬分ノ外ハ通路ニ阻礙等アリテ往來ニ不便ヲ生
スルノ患ナシ冬分ニ至レバ雪積ヲテ家ノ高ニ至ル冬間往來
ノ不便推テ知ルベキ而已

抑モ新潟港ハ交易賣買ノ業全クナキモノトシテ論スレバ死都

ト云フモ不可ナキニ似タリ又市中ニハ相應ニ外國製造ノ品物ヲ販賣スル商店アリ余曾テ其商店ニ贗造ノ英國麥酒ト美質ノ「バスビイル」ト其他日本製「ラレット」酒ト「澤山」現受ケシ「ア」リタリ然ルニ目今ニ至リテハ「ラレット」酒ハ其質粗ニシテ其味惡シキカ故ニ下等ノ醋ニ代用スルモ猶ホ充分ナラス

學校ノ下

教育上ノ進歩実ニ迅速ナリ而シテ毎年政府并ニ當縣廳ノ兩所ヨリ若干ノ扶助金ヲ受クル外ニ亦富豪ノ農高輩ヨリ寄附金書籍寄附等陸續トシテ断ヘス

港内小学校ノ数ハ決シテ十校以下ニ下ラスシテ其教師ノ數男女ヲ合セテ百十名アリ以テ二千九十七名ノ生徒ヲ教授ス但シ右ノ内七百六十七名ハ女生徒ニ係ル

教授料ハ極ハメテ低廉ナリ然ルカ故ニ貧富ノ別ナク何人モ力

ニ應スル程ナリ今其内譯ヲ述マンニ入校料ハ二十五錢(即チ英貨十一「マンス」月謝八拾錢(即チ四「マンス」半)ヨリ貳十錢(即チ九「マンス」マデノ間ナリ斯クノ如ク一定セシト雖モ一家族ヨリ學校ニ入ル、所ノ子供二人以上ニ至レバ半減ヲ納ムルノ成規トス)扱又特ニ貧窮ノ者トカ特別ノ事狀アルカ何レニシテモ月謝等ヲ納メ難キ者ハ戶長ノ與書ヲ副テ出願スレバ無月謝入校ノ許可ヲ得ルモノトス

凡ソ小学校教師ノ月給ハ二圓(即チ英貨ニテセ「シルリング」六「ペンス」)ヨリ貳拾圓(四封度五「シルリング」)マデノ間ニ居ルモノトス尤モ右ノ内五四以下ノ教師ハ生徒ノ内ニ就テ學事進歩ノ者ノ内ヨリ之レヲ撰擧スルモノトス

又小学校女教師ノ月給ハ少ナキハ壹圓五十錢(英貨ニテ即チ五「シルリング」七「ペンス」半)ヨリ多キハ六圓(即チ英貨志封度二「シル

リング六[」]ペンスマデノ間ニ止マルモノトナス
且又晝學校ナルモノアリテ以テ讀ミ書キヲ教授シ夜學^{校アリ}トシテ
ヲ^トハ^ハ算術裁縫ヲ傳授スルモノトス
凡[」]學校ノ出入時間ハ夏分ノ間ハ午前第七時ヨリ正午第十二
時マデノ間ニシテ冬分ニ至レバ午前第八時ヨリ初マリ午後第
三時ニ終ルモノトス
千八百七十年ニ於テハ當新潟港ノ住民若干合併協力シテ以テ
新潟學校ナルモノヲ設置シタルモ容歳ノ初メニ當リ之レヲ當
縣廳ニ讓渡セリ爰ニ於テカ其後暫クシテ其學校ヲ病院近鄰
ナル目今ノ位置ニ移轉セリ
其他病院近鄰ニ諸學校ノ設ケアリ其内ノ一ハ即チ中學校是レ
ナリ以上語學校并ニ中學校トヲ合セテ其二校ノ生徒現今百六
十名ナリ教師五名アリテ以テ英語ニテ教授スルモノトス其教

師ノ内一名ハ英人ニシテ九十七名ノ生徒ヲ引受ケ教授ス
近來當新潟縣廳ヨリ一令ヲ發シテ以テ凡[」]當縣管下ノ小區ニ
於テハ各區其區入費ヲ以テ二名ノ生徒ヲ此等ノ學校ニ差出ス
ベキコニ定メタリ故ニ目下現ニ其區入費生徒ノ員數五百名ニ
及ベリ
凡[」]各小區ヨリ此等生徒ノ入費トシテ學校ニ拂入ル、高ハ一
人ニ付一ヶ月ニ付三四五十錢英貨ニテ拾貳[」]シルリング拾[」]ペン
スマ[」]ヲ常トス右ノ内ヨリ左ノ定額ヲ諸費ニ供スルモノトス
即チ月謝五拾錢壹[」]シルリング拾[」]ペンスマ[」]食料七拾五錢貳[」]シルリ
ング九[」]ペンスマ[」]炭代拾錢四[」]ペンスマ[」]五分ノニ[」]其外ニ夏分ニハ蚊帳
損料貳錢五厘壹[」]ペン[」]半[」]冬分ニハ薪代トシテ此貳錢五厘ヲ引
去リ然ル上ニテ其殘金ヲ渡シテ以テ小使ノ用ニ供スルモノト
ナス

凡ソ教育年間ヲ定メテ五ヶ年ノ期トナシ學期ヲ別ツテ十期トシ一期ヲ毎ニヶ月トナス試験ハ毎月并ニ每半ヶ年ニ之レヲ行フモノトス而シテ生徒ノ内殊ニ學業進歩ノ証満足ナル者ハ每期ノ終ニ至リ昇級スルヲ常トナス

扱又凡ソ生徒ノ内ニテ二期引續キテ試験ヲ全フセザル者ハ退校ヲ命スルノ成規トナス

教師ノ月給ハ拾貳圓英貨ニテ貳ポンド四シリングヨリ四十圓八ポンド十六シリングニ至ルモノトス扱又教授時間ハ毎日五時間ツ、ヲ常トス而メ其制限ノ如キハ日ノ長短ニ依リ異同アリトナス

此等諸學校ノ極々近傍ニ師範學校ナルモノ壹ヶ所アリ而シテ此師範學校ニ附屬小學校一ヶ所アリテ以テ卒業間近ノ生徒ヲシテ授業法ヲ実地ニ施行ヤシメテ以テ後來ノ用途ニ供マシム

ルモノトナス

目下此附屬小學校ニ入りテ教授ヲ受クル者男子ハ八十八名ニシテ女子三十二名ナリ然レモ大ニ學校増築ノ擧マリタレバ不日三百名ノ多キニ至ラン

師範學校ノコ

此師範學校ノ創設ハ實ニ千八百七十四年間ニアリテ文部省ノ之レヲ開設ヤシモノニ係ル抑モ此校ヲ建ル所以ハ小學教師ヲ養成ヤンカ為メナリ然ルニ其後文部省ノ所轄スル所トナラスシテ千八百七十七年ノ初メ當縣ノ所轄ニ轉セリ

師範學校教育ノ年限ハ二ヶ年ヲ以テ定期トナス扱又入校ノ年齢ハ十八歳以上四十歳以下ノ者ニ限ルノ成規トス而シテ已ニ開陳ヤシ如ク其生徒ノ負數ハ目今百三十五名ナリ凡ソ生徒ヲ別ツテ三級トナス即チ其内ノ一級ハ自費生ニシテ

其次ハ自費ヲ以テ學資ヲ辨スルアタハザルモノナルニ付毎月
師範學校ヨリ三回英貨ニテ拾壹ポンスツ、ノ貸費ヲ申受クル
モノニ係ル斯ノ如ク貸費生トナルニハ身元相應ノ新潟居住ノ
者ヲ保証人ニ立テ後日業卒リ教師トナリ然ル上月賦辨償ノ事
ト定ムルモノナリ

然ルニ近來小學教師ニ乏シキカ為メニ第三級生ナルモノヲ設
ケリ蓋シ此第三級生ナルモノハ尋常ヨリモ一層迅速ニ一通リ
ノ教育ヲ受ケ卒業ノ早キヲ貴ムカ故ニ此一級ニ限リ卒業ノ期
ヲ僅ニ六ヶ月間トス

扱又此三級生ニモ前全様小額ノ學資ヲ貸与シ卒業ノ上之レヲ
辨償セシムルモノトナス同三級生ノ負數二十名ナリ

以上四學校ノ長一名アリ其月給五十五回英貨ニテ拾ポンド一
シルリングハ「ペン」スナリ又諸教師ノ給料ハ拾回一ポンド拾六

シルリングハ「ペン」スヨリ三拾五四六封度ハ「シル」リング六「ペン」
スマデノ間ナリ

化學學校ノ創設ハ亦令ヲ去ル四ヶ年以前ニアリ化學生徒ノ卒
業期ハ之レヲ五ヶ年ト定ム而シテ入校年齢ハ十八歳以上二十

五歳以下ノ者ニ限ル其生徒ノ負數目下三十二名ナリ
凡ソ此等諸學校ノ試験法ノ如キハ已ニ前述ノ方法ヲ又用ユル
モノトス

病院ノ一
新潟病院ニ於テハ其患者ノ治療方其外ニ付テ萬事注意ノ行届
クヲ實ニ莫大ナリ

現ニ其病院ノ醫師九名アリ右ノ内一名ハ外國人ナリ

然ルニ今日迄引續キ新潟病院ノ雇トナリ居タル荷蘭醫交々其
説ヲ吐キシニモ拘ハラズ新潟病院内部ノ經濟向キハ未タ充分

ノ度ニ至ラストス夫レ内部ノ經濟向キノ完全ナルガ如キハ凡
ソ斯ル一大病院ニ取リテハ必要欠クベカラザルハ普ク世人ノ
了知スル所ナリ
新潟市民ヨリ地方病院費トシテ若干額ツ、出金スルカ故ニ該
病院ノ治療費等ハ小額ニシテ全ク名義而已ニ過キス
扱又入港患者ヲ別ツテ上中下ノ三級トナス下等室ニ入院スル
患者ハ大室へ入レ込ミニシテ一室内凡ソ拾貳人ツ、ヲ常トス
然ルニ上中ノ二級ノ如キハ各別室ニ居ルモノトナス
醫學校ナルモノ一ヶ所アリテ此新潟病院ニ附属ス該校ハ今ヲ
去ル三ヶ年以前ノ創立ニ係ル而シテ又其校ノ生徒ハ當新潟縣
全管内ヨリ入校スルモノニシテ目下其員數ハ百貳拾名ナリ
入校志願ノ者ハ試験ヲ經テ然ル後入校スルモノトス而シテ其
卒業期ハ之レヲ五ヶ年ト定ム又學費ノ如キハ食料ヲモ込メテ

五田(英債ニテ拾ハシルリング四「ペン」ズ、トナス

扱又校内ノ生徒ノ勉勵進歩ヲ見シガ為メニ定期試験ヲ行ヒ卒
業ノ上其卒業試験表ヲ東京ニ送付スルモノトス爰ニ於テカ滞
リナク業ヲ卒ヘシ者ハ同業免狀ヲ下附セラル、モノトス
該病院備ノ荷蘭醫每日此校ニ出テ、以テ生徒中上達ノ者凡ソ
五十名ハ醫學講義ヲ授ケルモノトス
近頃當縣下ハ御巡幸ノ節天皇陛下ニハ當縣近傍ノ人民中ニ眼
病者ノ多分ナルヲ不愍ニ思召サレ千圓ヲ下賜リテ以テ新潟眼
病院ノ費途ニ供スルコトナリタリ余カ聞ク所ニ由レハ昨今ハ
眼病院設立ノ目論見中ニテ出入費ノコヲ討議最中ナリト云フ
凡ソ當縣下醫術治療ノコヲ稟陳ユルニ當リテハ余ハ爰ニ「ドク
トル、パーム氏ノ事ヲ載スルヲ忘却スベカラス同氏ハ嘗ニ新潟
而巴ナラズ猶亦近傍ノ諸地ニ至ル迄貧民ヲ救助スルコトニ付大

ニ盡カスル所アリトス

同氏カ医学傳教師トナリテ医術ヲ施スニハ只藥代ノ現價ヲ申受クル而已ニシテソレトテモ貧困ニシテ之レヲ辨セザル者ニハ此藥代ヲモ施スヲ常トス

夫レ「ドクトル、パーム氏」ハ斯ク仁愛主義ヲ施スニ加フルニ全氏ノ治術巧妙ナルアルヲ以テ陸續トシテ全氏ノ治癒ヲ乞フ者ノ多キニ至リシハ言ヲ埃々スシテ明瞭ナリ

梅毒病院ハ百事能ク行届キ其諸規則等嚴ニ実施セラル、モノトス

新潟ニ於テハ毎月三回ツ、娼妓ヲ検査スルモノトス

凡ソ娼妓タル者ハ梅毒病院ノ外ハ一切藥劑ヲ投スベカラザルノ成規ナリ然ルニ若シ此成規ヲ犯ス医師アルハ罰金拾圓英貨ニテ「ポンド」拾六「シルリ」ニ「グ」ハ「ペン」スヲ賦課スルモノト

ス

凡ソ梅毒病院入院患者ノ等級ハ之レヲ別ツテ上中下ノ三級トナス上等中等、兩患者ハ何レモ夫々別室ニ構ヘ下等ハ入レ込ミノモノトス

入院料其他ハ高カラス低カラス能ク其當ヲ得又貧女ニシテ自辨シ難キ者ハ施藥スルヲ常トナス

今日ニ至ル迄五ヶ年間ニ娼妓出願者ノ大ニ減少ニ就キシハ誠ニ悦ハシキ至リナリ是レ畢竟政府嚴律ヲ設クルト鑑札料等ノ増加セシニ依ルモノトス

女工場ノ丁

女工場ハ近頃長岡、柏崎、村松并ニ佐渡、相川等以上ノ諸市町ニ開設スルニ至レリ

抑モ此女工場ヲ設クルノ意ハ原来前縣令楠本正隆氏ノ發意ニ

出テタルモノニシテ其後今ノ令公永山盛輝氏能ク之レヲ擔當シ其意ヲ全フセリ今ニ於テハ當縣歳入ノ中ヲ以テ此女工場ノ費途ニ供スルコトナレリ

凡ソ此女工場ニ入ラント欲スル者ハ其親族若クハ朋友ノ願書ヲ副テ出願スレバ入場ノ許可ヲ經テ以テ教育ヲ受クルモノトス但シ入場年齢ハ十三歳以上二十五歳以下ノ者ニ限ル

凡ソ入場生徒ヲ別ツテ二等トナス右ノ内一級ハ費金ヲ自辨スル能ハザル女子ニ属スルモノトス

凡ソ保証人ヨリ書面ヲ出シテ以テ四ヶ年半入場セシムルコトヲ保証スレバ厘毛モ費用ヲ自辨ヤストモ工場ヨリ之ヲ給与シ且ツ又其レ而已ナラス小額ノ付與金ヲナシテ以テ其生徒ノ兩親若クハ親族ノ貧ナルモノヲ扶助スルモノトス

但シ斯ク扶助料ヲ付與スルノ割合ハ入場ノ時拾四英貨ニテ志

ポンド拾六シルリシグハ「ベンス」第二ヶ年目ニ至リテ五四三ヶ

年ノ歳末ニ至リテ尚ホ一層小額ノ金負ヲ付与シ退校ノ日ニ臨ミテ更ニ亦拾四ヲ給與スルモノナリ

以上付與金ノ外ニ又毎年夏冬トモ一通リノ衣類ト下駄三足工場用書籍并ニ習字用物品等ヲ女生徒ニ給与シ加之小使錢トシテ毎月壹圓ツヲ給スルモノトス

此學校開業以來日ナラスシテ此等貧女生徒ノ入校スルモノ已ニ壹百名ニ至レリ

然ルニ他ノ一級ハ費用ヲ自辨シ得ル女生徒ノミニ係ル而シテ此級ノ生徒ハ入場ノ期等結約ナキモノタルガ故ニ何時ニテモ退場セント欲スル時ニ於テハ相當ノ手續ヲ履ンテ出願スレバ退校ノ許可ヲ得ルモノトス已ニ過日此級ノ生徒五十名アリタ

然レニ本年初頭ニ當リ實ニ入場期限ヲニケ年半ト定メテ貧女
生徒一百名ヲ入場マシメタリ而シテ其生徒へ入場ノ節七円五
拾錢ツ、ヲ給與セリ且又卒業ノ期ニ至リテ右同額七円五拾錢
ツ、ヲ生徒へ給與スベキ積リナリ

以上諸生徒ノ外ニ亦目下寄宿生十八名アリ此等寄宿生ハ毎月
誤^{毎日}五錢(英貨ニテ貳^〇ペンス四分^〇一)ツ、ヲ拂入ル、モノト
ス

凡ソ女工場課業時間ハ夏分ハ午前第五時ニ初マリ午後第三時
ニ終ルモノトス但シ其間一時間ハ晝飯ノ時間トナス冬分ニ至
レバ開閉トモ一層短縮スルヲ常トス

讀書算術等ノ教授ハ午後第三時三十分ヨリ六時マデトス亦割
烹ノ仕方ヲモ傳授シ女生徒ヲシテ輪番ニ庖厨ノ事ヲ分擔セシ
ムルモノトス而シテ斯ノ如ク庖厨ノ勞ヲ取りシ時ニハ各生徒

ハ五錢ツ、給与スルモノトナス

新潟女工場ハ以前當新潟港ニ鎮臺ヲ置カレシ時兵士ノ屯集場
ナリシモノヲ用テタルガ故ニ場内甚タ手廣ナリ

現ニ新潟女工場ニハ手織機百六十通リアリテ以テ毎年産出ス
ル所ノ生糸并ニ織物類ヲ合セテ凡ソ壹万^〇ヤル^〇内外ニ居ルヲ
平均トス又足袋ヲ製造スル高千五百足ヨリ二千足ニ及フ但シ
此足袋ヲ造ルニハ婦人一名之レガ長トナリ諸事ヲ總轄ス其外
尚ホ附屬ノ者七名アリトス

余ハ今諸学校ノ論題ニ付筆ヲ擱ク前ニ尚ホ爰ニ一言ヲ陳セス
ンバアルベカラサルモノアリ即チ農学校ノ一事是レナリ
抑モ此農学校ナルモノハ凡ソ農事ヲ理論ト實際トニ由リテ相
研究スルガ為メニ設ケシモノナリ

凡ソ三十七^〇エ^〇クル内外ノ地面ヲ取圍ンテ以テ此農業學校ノ

用途ニ供シ女工場近クニ近來廣大ノ學校ヲ建築セリ
數週日前余ハ此農學校内ヲ一覽セシニ該校ノ報告ニ由レバ入
校ノ生徒凡ツ三十名教師六名アルト云スト雖ヒ其生徒モ教師
モ何レモ農事ニ意ヲ傾ケルノ淺キヤ著ルシキヲ知レリ
其學校構内ノ地面ニハ猥リニ諸樹木等ヲ植付ケ且ツ外國ノ諸
植物類ヲモ植込ミアルヲ目撃セリ
近來ニ至リテハ獨リ新潟而已ナラス相川長岡下原村并ニ青梅
村等以上ノ諸地ニ於テモ亦新潟同様ノ農業學校ヲ開設スルニ
至レリ就テハ具果シテ效ヲ奏スルアラントヲ望ム
諸會社ノ

凡ツ全國内一般ノ米質易ヲシテ非常ノ浮沈等ナカラシメテ以
テ投機商ノ為メニ農商ノ損失ヲ被ムルノ患ヲ防ガンガ為メニ
嚮キニ太政官ニ於テハ一令ヲ發シテ以テ更ニ米商規則ヲ設ケ

米商一切ノコトハ向後其規則ヲ履行スベキコトニ定メタリ

即チ太政官ヨリ此令ノ發セシニ付(實ニ明治七年十二月廿七日
第百三十五号ノ發令是レナリ)翌明治八年九月二十八日大藏省
ヨリ布告シテ以テ同省ニ於テ制定セシ規則ヲ遵奉シテ米商會
社ヲ創立セント欲スル者ハ更ニ同省ニ出願シテ以テ創立ノ許
可ヲ得ベキコトヲ令セリ

此等ノ諸規則ヲ畧陳スレバ即チ左ノ如シ

第一條

凡ツ大意書ヲ差出シテ以テ該會社株式ノ價格員數株主ノ姓名
役員ノ姓名并ニ給料等ヲ掲ケ併セテ亦取引手数料等ヲ逐一詳
記スベキコト

第二條

凡ツ米商會社創立ノ許可ヲ得タル上ハ其年限ハ五ヶ年ニ限ル

ハシ然ルニ五ヶ年ノ後ニ至リ猶ホ營業セント欲セハ地方廳ノ
與書ヲ添ヒテ出願スレバ更ニ其年限ヲ伸スコアルベキト

第三條

資本金ノ内三分ノ二ハ米商會社ノ設ケアル地ノ地方廳へ預ケ
置キテ以テ其確實ナルノ保証トナスベシ但シ此預ケ金ニハ毫
モ利子ヲ付セザルト

第四條

議長若クハ副議長ニ撰任スル者ハ必ラス該會社ノ株ヲ少ナク
トモ二十株以上所持ノ株主タルベシ
議長若クハ副議長タル者ハ誓約書ヲ出シテ以テ其職ヲ公明誠
實ニ務ムルコトヲ約スヘシ支配人タル者ハ之レヲ株主ノ中ヨリ
撰定スベシ書記其他屬吏ノ如キハ之レヲ株主ノ中ヨリ撰ムト
モ若クハ該會社外ノ人ヲ以テスルトモ妨ケナキト

第五條

株主總會議ハ毎年二月一日ヲ以テ定日トスベシ而シテ頭取ノ
報告ハ必ラス會議ニ先立ツコト一ヶ月前ニ其地方ノ新聞紙上へ
掲載スルカ若クハ其他ノ方法ヲ以テ普ク廣告スベシ此報告ハ
又特別ニ地方廳若クハ其他主務ノ役員へ差出スベキト

第六條

該會社役員ノ負數ハ固ヨリ會社ノ隨意ニ任シ其數ヲ一定スル
ナシト雖モ其負數ハ何時ニテモ決シテ五人ヨリ少ナカラザル

此大藏省布告ノ世ニ出テシヨリ出願スル者少ナカラスシテ今
ヤ全國諸地方ニ創立セシモノ其社數凡ソ拾七社ニ至レリ
原ト政府ノ意ニテハ各縣一米商會社ニ限ル積リナリシナレモ
其後米商輩ノ諸說事狀利害等ニ由リテ此一米商會社ニ限ルノ

意ヲ変セリ

新潟米社創立以來當地ヨリ出願セシ分三ヶ所アリタリ乃チ地蔵堂、田島ノ兩地ニ米商會社ヲ設ケ又新潟ニ第二米社ヲ創立セシコトヲ出願セシモノ是レナリ

然ルニ此等出願ノ分ハ何レモ種々ノ理由アリテ許可ヲ得ルニ至ラザリシ

蓋シ斯ク許可ニ至ラザリシハ固ヨリ種々ノ理由アリテ然リシ由ナレバ其中ニ就テ最モ意トセシハ若シ當縣内ニ創設スル米商會社一社ヨリモ多キニ至ルハソレガ為メ却テ米價ノ沸騰ヲ來シ随テ當縣内人民ノ幸福繁榮上ニ妨礙ヲ生スルナルベシト思考セシニ由テナリ

新潟米商會社ノ株數ハ三百株ニシテ一株百四ツ、ナリ而シテ該會社ハ千八百七十七年四月五日發行ノ米商規則ヲ遵奉セシ

諸米商會社中第七ノ會社ナリ

此會社ノ取引ハ休日大祭日ヲ除キ毎日二回ツ、免許ヲ得タル仲買人ヲ經由シテ取引ヲモノトス

目今該會社仲買人ノ負數六十名ナリ此等ハ何レモ出願ノ上許可ヲ得タル者ニシテ二名以上ノ身元引請人ヲ立テ且ツ百四ノ預ケ金ヲ出シテ以テ不正ノ事等ヲ働クコナク能ク諸規則ヲ遵奉履行シテ以テ賣買ニ従事スベキコトヲ保証スルモノナリ

凡ソ仲買人ノ免許鑑札ハ一ヶ年ヲ以テ定則トナス然レバ何時ニテモ鑑札ヲ返付シテ仲買ノ業ヲ中止シ得ルモノナリ而シテ其米取引ノ諸勘定ヲ取纏メ檢査ヲ經決算濟ミニ至レバ預ケ金ヲ取戻シ得ルモノトス

凡ソ仲買人タル者ハ又該會社ノ許諾ヲ得レバ其身ノ用ニ供スル手代ヲ命スルモ妨ケナシトス尤モ之ヲ命シタル上ハ若シ其

人々諸規則ニ違背シ若クハ其他不正ノ舉動等アルニ當リテハ仲買人其責ヲ受ケザルベカラス

扱又仲買人ノ預ケ金ハ若シ其仲買人タル者會社ニ對シ諸規則ヲ犯シ若クハ其他有罪ノコトアル時ニハ會社ニテ預リ金ヲ没收

シテ仲買人ニ返付セザルノ成規トス而シテ身元引請人へモ亦斯ル場合ニアリテハ三十四(英貨ニテ五ポンド拾シリング)ヨ

リ多カラザル罰金ヲ賦課スルモノトナス
凡ソ該會社ノ總勘定ハ必ラス毎半年ノ仕上ケト定ム乃テ五

月十一月ノ兩度ナリ
該會社ノ純益若シ壹割以上ニ至ルホハ其壹割以上ノ出テタル

分ノ内一分ヲ引去リテ以テ準備金ノ中へ繰込ミ殘額ヲ株主一同へ配付スルモノトナス

凡ソ該會社ニ於テ米ヲ公賣スルニハ從前ハ上米百石ツ、ヲ一

ロトヤシガ目令ニ至リテハ尚ホ二倍シテ貳百石ツ、トナスニ及ベリ

扱又凡ソ貳百石若クハ貳百石以上ノ米取引ノ都度ニ買受人ノ方ニ於テハ何レモ即時米價ノ壹割ヲ米社ニ拂渡スモノトス而

シテ斯ク内金ヲ拂フニハ紙幣ヲ以テスルカ若クハ米ヲ以テシテ該會社ノ米廩ニ積込ムモノトナス

其外ニ亦賣込ミ時ノ景況ニ由リテ賣主ノ方ヨリカ買主ノ方ヨリカ五分ノ内金ヲ拂ハザルベカラス乃テ若シ米價騰貴ノ勢ア

レハ賣主ヨリ内金ヲ出シ若シ之レニ反シテ其相場下落ノ勢アレハ買主ノ方ヨリ内金ヲ出スモノトナス

凡ソ此等内金ヲ拂渡シタル以上ハ該社ノ社印并ニ賣主ノ印判ヲ押捺シ且ツ成規ノ印紙ヲ粘用シタル受取証書ヲ買主ノ方へ

渡スモノトス

凡ッ受渡シハ該會社ノ規則ニ由リテ之レヲナスヲ常トス而シテ大抵賣込ヲナセシ月ノ月末ニ至リ受渡シヲ行フモノトス凡ッ受渡ノ當日午後二時前ニ賣主ヨリ買主へ前以テ通知アル時ニハ買主ノ方ニ於テハ是非勘定ヲ仕上ケテ以テ其通知ヲナセシ日ヨリ翌月七日ニ至ル迄ノ間ニ殘金ヲ拂込マセンハアルベカラス

若シ賣主ノ販賣用ニ供スル米不足ニシテ買主へノ約束高ニ應ヤサルコアルハ賣主ハ其内金ヲ取戻スノ権理ヲ失スル而已ナラス尚ホ其外ニ百石ニ付三四ツ、ノ罰金ヲ買主ニ拂ハスンバアルベカラス

凡ッ賣主ハ買主ニ賣渡シノ通知ヲナセシ日ヨリ翌月ノ七日ニ至ル迄ノ間ハ仮令何様ノ損失アルトモ一切其身ニ引受ケ七日以後ハ更ニ買主ノ引受ケトナルモノトス

扱又凡ッ受渡シヲセザル前ニ買主ノ制禦スベカラザル原因アリテ米價下落シ其下落三割五分以上ニ至ルハ更ニ他ノ米ヲ渡シテ以テ最前取組ミシ全額ヲ完フスルモノトナス然レモ若シ其下落三割五分以下ニ止マルハ双方ノ間ニ示談ヲナシテ以テ如何ヲ決スルヲ常トス

扱又該會社所有ノ米廩三棟アリテ以テ右ノ如ク受渡ノ前ニ米價ノ下落スルコト三割五分以上ニ至ルハ賣主ノ費用ヲ以テ其米廩ヨリ更ニ良米ヲ出シテ受渡シスルモノトス

然ルニ販賣用ニ供スル米ノ内孰レニテモ其質一変シテ下等ノモノトナルコトアルハ賣主ノ方ニ於テハ更ニ他ノ賣レ好キ米ヲ買主へ渡ス為メニ二三日間ヲ猶豫ヲ得ルモノトナス然ルニ三日以後ニ至リテモ猶ホ受渡シ濟ミニ至ラザルハ受渡シ濟ミ迄毎日百石ニ付拾四ツ、ノ罰金ヲ買主へ拂フベキモノト

ス
凡ソ買主タル者其買込ミ米ヲ引取ルヲアタハザル中ニハ賣主
ハ之レヲ米社ノ市場ニ賣ルモノトス又賣主タル者其販賣用ノ
米ヲ渡ストアタハザル中ニハ買主ハ更ニ米社ノ公賣ヲ以テ他
ノ米ヲ買入ル、モノトナス斯ノ如ク賣買スルニ付テ米價ニ差
ヲ生スル中ハ其多少ニ拘ハラズ必ス何レノ場合ニ於テモ内金
ノ内ヨリ之レヲ引去リテ以テ毫モ法度ヲ煩ハス等ノ勞ナシ
扱又凡ソ賣主買主ノ間ニ生スル爭論ハ一切之レヲ米社ノ役員
ニ申立テ、以テ其決ヲ仰クヲ常トナス
仲買料ハ貳百石ニ付六拾錢ツ、ノ割合ナリ其他又該會社ハ拂
フベキ諸費百石ニ付二十錢ツ、ナリ右ノ内凡ソ半額ハ政府ハ
上納スルモノニ係ル
以上開陳スル所ハ是レ現ニ公賣ヲ以テ甲ヨリ乙乙ヨリ丙丁等

ハ米ヲ轉傳スル方法中重立タル諸規則ニ係ル然ルニ猶ホ又
販賣ノ別法アリ乃チ現場ナルモノ是レナリ(現場トハ即金ニ代
價ヲ拂フモノナリ)此現場ナルモノハ前文開陳セシ販賣法即チ
本場(右ハ真價若クハ実價ト云フノ意ナリ)トハ相反タルモノト
ナス
此現場賣買モ亦賣主ト買主トノ双方ヨリ貳百石ニ付拾五回ヨ
リ四十五回マテノ内金ヲナシ置キテ以テ公賣スルヲ常トナス
但シ内金ノ割合ハ其賣時ノ米價ニ由リテ一定スルモノトナス
斯ク賣買ノ場合ニ於テ賣込ミトナリタル米ヲ現ニ賣主ヨリ買
主ニ渡ストハ甚々稀レニシテ只空賣買ヲナス而已ニ過キス而
シテ賣込ミ濟ミ、後八日ヲ經テ當日ノ平均價ヨリモ騰貴スル
カ下落スルカ其如何ニ由リテ其米ハ賣買仲間ノ内何レカノ所
有トナルモノトス但シ其内ヨリ會社ハ拂フベキ諸費并ニ政府

へ上納スベキ税金ヲ引去ルモノトス
一定ノ成規ハ夫レ斯ノ如シト雖其賣込ミタル米ヲ現実譲渡
スヨニ付テハ示談ノ上如何ナル取極メヲナスモ賣買両主ノ望
ミニ任スルヲ常トナス

以上開陳スル所ノ如クナルニ付政府ノ許可ヲ得該會社ノ規則
ヲ設ケテ斯ル博奕質ノ一會社ヲ創立シテ以テ全國米貿易ノ業
ヲ確固ナラシメントハ余カ考察シアタハザル所ナリ

當米社ニ於テ本場賣買ニテ現実甲ヨリ乙丙丁等ニ轉傳スル米
ハ去九月三十日ニ至ル迄ニ二百拾五万四千八百石ノ多キニ上
ホレリトスサレバ當縣全管下ヨリ産出スル良米ヨリモ殆ト二
倍方程ノ巨額ナリ

扱又右同年間ニ現場賣買高ハ百四拾七萬二百石ナリ然レモ已
ニ令前文ニ開陳ヤシ理由アルニ付此現場賣買高ハ米取引高ノ

部内ニ算ハスルアタハザルモノトナス

去五月三十一日ニ至ル迄ノ半年ニ係ル米社々長ノ報告ニ依
レバ半年間ノ賣込ニ内金ハ四萬三千六百九拾四八十五錢ニ
シテ政府ヘノ上納稅并ニ印紙稅トモ此二口ハ合セテ三千二拾
四四十五錢三厘ナリトス

又純益ハ貳千百三拾一四二十九錢六厘ナリ右ノ内千九百二十
四ハ株主一同ヘ配當セリ但シ一ヶ年ニ付配當金ノ割合ハ尙割
貳分ト八分ノ一ナリ

當米社ノ取引ハ毫モ我英國ノ利害ニ関ヤス又實ニ當地ノ米市
場ニ毫モ影響スル所ナキカ故ニ政府カ斯ル一米社ヲ創立シテ
以テ當國ノ米貿易ノ業ヲ確固ナラシメ隨テ投機事業ヲ防遏セ
ント欲ヤシノ意ニ付其當否ヲ討議スルハ余カ関スル所ニアラ
ザレハ別ニ贅セス

然レ氏余爰ニ一言ノ呈スベキモノアリ請フ之レヲ述ベン
現ニ一方ニ於テハ政府ハ此等ノ諸米商會社ヨリ小々ナラザル
歳入ヲ得ルニ原来此等ノ米商會社ヲ創立セシ目的ニ至リテハ
其意ヲ貫カザリシ而已ナラス大ニ之レニ反シテ免許博奕ノ大
法ヲ創起セシムルニ至リシト是レナリ

銀行ノフ
三四年前第四國立銀行ノ設立アリ其株數ハ二千株ニシテ一株
百圓ツ、ナリ

其運轉誠ニ宜シキヲ得テ現ニ其株ハ貳割五分ノ打歩ヲ呈スル
ニ至レリ又近頃配當セシ益金ハ年々割四分ノ割合ナリ
余カ聞ク所ニ曰レバ資本金ヲ三十萬圓ニ増加スルノ意アリト
云フ

目下銀行紙幣ノ流通高ハ貳拾六萬圓ニシテ易々自在ニ日本人

中、轉傳通用スルモノトナス

郵便并ニ電信ノフ

當地ニ初メテ郵便ノ制ヲ設ケシハ凡ツ千八百七十二年ノ半ハ
項ナリシカ此制ノ設ケナキ前ニハ信書ノ往復等ヲ一切飛脚ナ
ル者ニ托セリ其飛脚ノ運賃ハ稍專斷ニ出テ、高低等常ナカリ
シナリ

三國往返ノ惡道路間々非常ノ有様ニ至ルヲ考察スレバ郵便
物ノ届キ方頗フル規則正シク且ツ迅速ナリトス

現ニ夏分ニハ三日間ヲ以テ平均トシ冬分ニハ六~~十~~日間ヲ以テ
平均トス然ルニ此制ノ設ケナキ以前ニアリテハ横濱迄一通ノ
信書ヲ送ルニ十二日間ヨリ十四日間ノ手間ヲ取レリ

嚮キニ日本全國中四分ノ一「オン」ニ付貳錢ツ、ノ郵便稅ト定
マリシ以來當新潟郵便局ヲ經由スル信書往復ノ數増加セシモ

ノ實ニ著ルシキニ至レリ

千八百七十三年五月三十一日ヲ以テ終リタル一周年間ニハ信書ノ員數送リタル者僅ニ六萬六千三百二十七通ニシテ受取リタル者ハ三萬四千七百九十五通ニ止マレリ

然ルニ千八百七十七年間ニハ其數大ニ増加シテ送リタル者四十三萬二千四百十通受取リタル者十九萬八千七百五十通ノ多キニ至レリトス

東京ト當國中自他ノ諸地トノ間ニ去九月五日ヲ以テ電信通線ヲ取開クトナリタリ但シニ線ヲ架設セリ而シテ其通信ハ明ニシテ且ツ迅速ナリトス然ルニ電信料ハ不都合ナル程ニ高貴ナリ

河蒸汽船ノリ

千八百七十二年ニ當リ資本金貳萬五千圓ノ一會社ヲ起シテ以

テ一艘ノ小蒸汽船ヲ買込ニ長岡迄信濃川往復ヲ初メタリ但シ

當港ヨリ長岡ニ至ル迄凡ソ四十英里ノ距離ナリトス

斯クノ如ク往復ハセシナレバ初メノ程ハ萬事不規則ナリシガ

漸ク二艘トナリ次テ三艘トナルニ及シテ夏分ノ間ハ新潟ヨリ

モ長岡ヨリモ必ラス日々往復スルコトナレリ

其船賃ハ低廉ナリ故ヲ以テ乗客甚ダ多クシテ昨年ハ乗客ノ負

數六萬七千五百九十名ニ至レリ

通運會社ノリ

通運會社ナルモノハ凡ソ日本全國中へ普ク支店ヲ設ケ手廣ク

通運ノ事業ヲ營ムカ故ニ今日ニ至ルモ猶ホ幾分カ東京其他諸

地ノ往復ノ商品ノ陸運ヲ專占スルノ勢アリトス

然ルニ其運賃極メテ不廉ニシテ当地ヨリ東京迄一駄(凡ソ二ホ

ンドルドウエー卜)ニ付夏分ナレバ拾三圓六十五錢冬分ニ至レ

ハ三割増シナルニ付商人等ハ其商品運輸ノ為メニ内約束ヲ締結シテ以テ一駄ニ付八四五十錢冬分ナレバ二割増シノ運賃ニテ往復スル者少カラザル程ナリ。
凡ソ毎年三國街道ヲ經テ運送スル物産并ニ諸商品ノ總價ハ先ツ粗ト槩算スレバ百五十萬ドル前後ニ居ルモノトス然ルニ本年ハ当港ニ入船セシ船舶ノ艘數増加セシカ故ニ此陸運廻シノ分太々減少ニ就キシ訳ナリ

新聞紙ノ下

目下新潟ニ二種ノ新聞紙アリ右ノ内一種ハ千八百七十七年明治十年四月ヨリ發兌セシモノニシテ毎日新聞ナリ他ノ一種ハ去七月ヨリ發兌シ初メシモノニシテ一ヶ月ニ三回ツ、ノ発行ナリ其外長岡ニモ毎週新聞一種アリ
檻獄所ノ下

新潟檻獄所ハ新潟市中ノ背面ニ位置ヲ占メ市中ト砂山トノ間ニアリテ一時ノ拘留人留置キ所及ヒ全縣下ノ有罪人其他罪罰數年ニ涉ル者等ヲ入レ置クベキ獄舎等ノ設ケアリトス
余數週前同檻獄所ニ至リテ一覽ヤシニ余カ數年以前一見セシ自他ノ日本檻獄所ニ比スレバ萬事最モ能ク行届キタルヲ目撃セリ
同構内ナレバ囚徒ノ入ルベキ建物ヲ別ツテニツトナシ高ク牆ヲ結廻シ且ツ門ヲ設ケテ以テ其間ヲ區別セリ
所長詰メノ役所ハ入口ノ正面ニアリ其兩側并ニ裏ノ方ニ當リテ低キ二階造リノ長屋アリテ囚徒ノ室ヲ其内ニ設ケ又其側ニ仕事場アリ臺所アリ且ツ廣間アリ此所ヲ以テ囚徒等ノ食堂トナス且又中央ノ地面ハ奇麗ニ草ノ蓋フアリテ以テ晒布場ノ用ニ供スルモノトナス

余囚徒等ノ狀況ヲ目撃セシニ何レモ大工傘製造等百般ノ業ニ
孜々勉強セリ且又囚徒ノ中ニハ漆器製造人モ陶工モアリ織物
師モアリ其他種々ノ職人等擧ケテ数フベカラス
仮令ヒ外見而已ニ過キザルカモ知レザレモ囚徒ノ教化驚クベ
キ程ニ行届キシモノ、如シサレバニヤ余カ同場ヲ巡視セシ時
懇ニ余ヲ案内セラレタル所長其他ノ役員ハ對シ囚徒ノ敬禮ヲ
表スルアルハ以テ此等囚徒ガ礼義ノ道ヲ未ダ忘却セザルヲ証
スルニ足レリ實ニ此礼義ノ道タルヤ昔時ニアリテハ殊ニ日本
ニ固有セシ一習^禮ノ風習ナリシトス

囚徒ノ斯クノ如ク敬禮ヲ盡スハ蓋シ畏敬兩ツテガウ相合シテ
然ルモノナリトス其故何トナレバ余ガ聞及ビシニハ同所々長
ハ其人ト為リ嚴格ニシテ併セテ亦情愛ノ深キ士ナレバナリサ
レハニヤ余ガ萬事ヲ目撃セシニ毫モ不敬ノ舉動等アルヲナシ

囚徒婦女、別獄ニアリテ亦縫裁紡績其他此類ノ業ニ従事ス且
男ト異ナル所ハ男ナレハ構内ノ周圍ニ散步スルヲ隨意ナルナ
リ婦人ニ至リテハ其室内ヲ去リテ外出シ得ザルモノトス
同所構内ノ隅ノ方ニ病室ニケ所アリ各室トモ寢臺ノ數凡ソ貳
拾位ツ、ヲ据置クモノトス而シテ其室内ハ清潔ニシテ空氣ノ
流通モ宜シク萬事好都合ナルカ如シ余ガ一覽セシ時二十九名
ノ患者アリタリ病疰ハ殆ト皆脚氣症ニ罹ルモノトス
其他ノ獄舎ニハ囚徒ノ中暫時禁錮ヲ命セラレタル者若クハ只
一時裁判ヲ待ツ拘留人等ヲ入レ置クモノトス此等囚徒ハ懲役
人トハ違ヒ別ニ常職ナケレバ勞役ニ従事スルヲナク毎日空シ
ク日ヲ暮スモノトス
其室内モ亦清潔ニシテ空氣ノ流通宜シキヲ得ルアリ然レモ其
便所ノ臭氣甚クシテ實ニ鼻ヲ撲ツ程ナリ

非常ノ場合トカ其他ノ事故アルニアラザレバ懲役人ヲ獨リ入
牢セシムルコトナシ余カ目撃セシ時ハ各室トモ其大小ニ依リ
テ十名ヨリ二十名マデノ囚徒ヲ入レ置キタリ
扱又囚徒一組毎ニ番人兩名ヲ付ス余ガ目撃セシニハ番人ノ用
ユルモノ長サ九ツ三「ヒ」ト直徑一「ヒ」
棒ニ過キザリシ
同所構内ノ一隅ニ答柱ノ設ケ一ヶ所アルヲ目撃セリ然レモ余
カ聞ク所ニ由レバ近來答刑ヲ廢止セシトノコナレバ最早何等
ノ用ニモ供スルコトナク只裝飾タルニ過キザル而已
余カ一覽セシ當日ノ調ニ由レバ囚徒ノ負數男四百十名ナリ右
ノ内三十九名ノ終身懲役ノ者ニ係ル女十年懲役ノ者二名十年
以下ノ者十五名ナリトス
九ツ囚徒ノ衣服ハ日本一般ノ着服ト同形ノ鳶色表衣ト股引ナ

又薄藍色ノ袖一ツナルハ一回逃走セント企テタル者ニシテ其
色ノ袖ニツナルハ同罪ヲ二度犯セシ者ヲ示スナリ犯スル三四
ニ及バハ死罪ニ處セラル、モノトス
成規ニ從ヒルヲ囚徒ハ夫々其業ニ從事スルモノトス余カ一覽
セシ時ニハ現ニ大工三名蠟燭製造人九名傘製造人七名仕立人
五名紙製造人十名染物人十九名竹細工人五名彫木人七名漆細
工物人三名足袋製造人六名瓦製造人十三名木綿晒人六名ニシ
テ其他ハ水運搬人小使草取り土運ニ等ノ勞ニ從事スル者ニ係
ル
又檻獄所ノ外へ出テ、勞役ニ從事スルコトヲモ許サル、モノナ
リ其賃銀ハ一日八錢(英貨ニテ三「ペン」ス四分ノ三)ヲ以テ定メト
ス

然ルニ囚徒輩ハ鎖鏈ニテ丈夫ニ腰ヲ繫ガレテ當市中ニ逍遙シ
大ニ自由ヲ得ルノ色アルヲ目撃スルハ誠ニ奇妙ノコトナリ
懲役ノ輕重其外ニ依リ囚徒ヲ別ツテ五等トナス即チ左記ノ如
シ

第一等囚徒

一等囚徒ナル者ハ其懲役ノ期殆ト満チ且ツ懲役中行状方正ニ
シテ不都合ナカリシ囚徒ニ係ル

其囚徒ノ所得金ハ之レヲ預リ置キテ以テ期満チテ獄ヲ出ル時
ニ當人ニ渡スモノトス尤モ右ノ内ヨリ在獄中ノ食料トシテ一
日三「フワーゼン」ヨリ多カラザル割合ヲ以テ引去ルモノトス

第二等囚徒

二等囚徒ハ其所得金ノ半額ヲ給スルモノトス

第三并ニ第四等囚徒

第三并ニ第四等ノ囚徒ハ在役中其行状方正職業勉勵ノ譯ヲ以
テ在役ノ期減縮セシ者ナリ

第五等囚徒

第五等囚徒ハ一層輕キ鎖鏈ノ囚徒ナリ

若シ囚徒ノ逃走スルコトアルハ其囚徒ノ番人タル者ハ三回ノ
罰金ヲ賦課セラル、モノトス

余已ニ天皇陛下ノ御巡幸一件ニ付テ間接ニ論セシコトアリタレ
ハ今亦別ニ贅セス只爰ニ一言ヲ呈セン天皇陛下ノ東京ヨリ當
地ニ御着輦ナリシハ實ニ九月十六日ナリ

二日間御駐輦ノ間ニ諸官廳等ニ臨幸アリ且ツ當縣下重立チタ
ル人々ノ中數名ハ謁見ヲ許ルセリ

千八百七十二年ヨリ千八百七十七年ニ至ルマデノ氣象表ヲ添
付シ併ヤテ亦目下當港在留ノ外國人一覽表ヲモ送呈シテ以テ

閱覽ニ供ス謹言

千八百七十八年十月三十一日

新潟駐劄

英國副領事

ゼームス、ゼー、エンスリー

英國特命全權公使

サー、ハマリー、エス、パークス閣下

千八百七十八年十月三十一日

子	因
	英
	日
	報
	蘭
	外
信	合

千八百七十八年十月三十一日

第一号
千八百七十八年間
新潟港輸入貿易表 (但シ外国船ヲ以テセシモノ)

品名	額	量	價	格
下綿製造物 六、八三〇 井				井
木綿糸		ピコル	一五〇	四、二〇〇
生金巾		ピース	一、〇〇〇	二、六三〇
金屬類 二〇、八三三 井				
釘鉄		ピコル	三、五二〇	一三、三二三
板鉄		ク	二三一	一、一七四
釜鉄 (旧鉄)		ク	一、五七〇	二、九二五
錫延板		ボックス	一二〇	七八〇
ワイ子エール		バーレル	一五〇	一、一一一
ワイロープ (旧)		ピコル	四一ニ	一、五〇〇
砂糖 (廣東)		ク	一、一九七	一〇、四三八
雜品 六、二二二 井				
ビール酒		バーレル	一〇〇	一、一九二
靴墨		ケース	五	一〇〇
蠟燭		ク	二五	一〇〇
ランプノホヤ		ク	六〇	九二〇
藁帽子		ドーズン	五〇	一八二
窓硝子		ケース	四九六	二、七六〇
葡萄酒類		ク	一〇四	五一八
雜貨				四九〇
合計				四四、三一三

英國特命全權公使

サー、ハアリー、エス、パークス閣下

ゼームス、ゼー、エンズリー

第 二 号
 千八百七十八年間
 新潟港輸出貿易表 (但シテ外人所有船ヲ以テセシ)

品 名	額 量	價 格
米	ピコル 二七一,〇六五	二二四、一六七

第 三 号 イ 印
 千八百七十八年十月卅一日ヲ以テ終リタル季節間大英并ニ殖民地ヨリ
 英船ヲ以テセシ直接貿易并ニ大英及ニ殖民地へ英船ヲ以テセシ
 直接貿易表

入 船							出 船								
艘 数			噸 数			合 計	艘 数			噸 数			合 計		
船荷積ノ分	輕荷積ノ分	合 計	船 荷	輕荷積ノ分	合 計	水夫負數	船荷ノ價	船荷積ノ分	輕荷積ノ分	合 計	船 荷	輕荷積ノ分	合 計	水夫負數	船荷ノ價
二艘	二艘	四艘	二、〇五一噸	二、五〇二噸	四、五五三噸	一一人	二、五八〇并	五艘	〇	五艘	五、四八四噸	〇	五、四八四噸	一四〇人	二、七〇、〇〇〇并

計 算

二二四、一六七

二、五八〇并

五、四八四噸

一四〇人

二、七〇、〇〇〇并

印 三 号 口 印
 千八百七十八年十月卅一日ヲ以テ終リタル季節間自他諸国ヨリ英船ヲ以テセシ
 面接貿易者ニ自他諸国へ英船ヲ以テセシ面接貿易表

船 差 立 許 ノ 國 名	入 船						出 船						水 夫 ノ 負 数 合 計	船 荷 ノ 價 合 計			
	艘 数			噸 数			艘 数			噸 数							
	船 荷 積 ノ 分	輕 荷 積 ノ 分	合 計	船 荷 積 ノ 分	輕 荷 積 ノ 分	合 計	船 荷 積 ノ 分	輕 荷 積 ノ 分	合 計	船 荷 積 ノ 分	輕 荷 積 ノ 分	合 計					
支 那	○	一艘	一艘	○	七六噸	七六噸	一九人	○	支 那	二艘	○	二艘	一七七噸	○	一七七八噸	四二人	八三五〇弗
									馬 尼 刺	一艘	○	一艘	六噸	○	八四噸	二六人	三四六弗

計 算
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

第三号ハ印

千八百七十八年十月卅一日ヲ以テ終ルタル季節間日本国内ノ諸海港場ヨリ英船ヲ以テセシ間接沿海貿易并ニ日本国内ノ諸海港ノ英船ヲ以テセシ間接沿海貿易表

船差立許ノ國名	入 船							出 船								
	艘 数			噸 数			水夫ノ負数合計	船荷ノ價合計	艘 数			噸 数			水夫ノ負数合計	船荷ノ價合計
	船荷積ノ分	輕荷積ノ分	合計	船荷積ノ分	輕荷積ノ分	合計			船荷積ノ分	輕荷積ノ分	合計	船荷積ノ分	輕荷積ノ分	合計		
兵庫	二艘	〇	二艘	一九四噸	〇	一九四噸	五〇人	五〇〇弗								
横濱	二艘	〇	二艘	一六八噸	〇	一六八噸	五二人	五九五弗	横濱	一艘	〇	一艘	〇	〇噸	二六人	二八三弗

Table on the right page, partially visible and mostly illegible due to fading and bleed-through. It appears to be a continuation of the shipping data table.

第 三 号 二 号 印
 千八百七十八年十月卅一日ヲ以テ終リタル季節間新潟港出入ノ外国船舶
 一 覽 表

國 名	入 船		出 船	
	艘 数	噸 数	艘 数	噸 数
英 船	九	八,九四二	九	八,九四二
日耳曼 船	三	一,七八二	三	二,七八二
那 威 船	一	八八二	一	八八二
佛 船	一	三四〇	一	三四〇
米 船	一	六〇三	一	六〇三
丁 船	一	二九七	一	二九七
合 計	一六	一三,八四六	一六	一三,八四六

第 三 号 一 号 印
 千八百七十八年十月卅一日ヲ以テ終リタル季節間新潟港出入ノ三菱汽船其他ノ艘数并ニ噸数一覽表

船 船ノ種類	入 船		出 船	
	艘 数	噸 数	艘 数	噸 数
郵便蒸氣船	一八	一七,八〇九	一八	一七,八〇九
帆船	一	七一	一	七一
合 計	一九	一七,八八〇	一九	一七,八八〇

第 三 号 一 号 印
 千八百七十八年十月三十一日ヲ以テ終リタル季節間新潟港輸入出税并ニ船舶出入手数料等収入高一覽表

税 目	金 高
輸 入 税	二四二圓一二錢四厘則テ二一八弗一一セント
輸 出 税	-----
船舶出入手数料等	三七四弗,〇〇

Handwritten notes and a table on the right page. The table has several columns with headers like '噸', '艘', '合', '信'. The text is partially obscured and difficult to read.

第四号

左、數年間新瀉ニ於ケル米價一覽表

、印八回位ナリ

月	和百六十九年	和百七十年	和百七十一年	和百七十二年	和百七十三年	和百七十四年	和百七十五年	和百七十六年	和百七十七年
	一、三〇〇〇=付	一、三〇〇〇=付	一、三〇〇〇=付	一、三〇〇〇=付	一、三〇〇〇=付	一、三〇〇〇=付	一、三〇〇〇=付	一、三〇〇〇=付	一、三〇〇〇=付
一月	...	二、八七五〇 二、七五〇	二、一一五〇	一、一二五〇 一、二五〇	〇、九三七五	一、三六五〇 一、九〇〇	二、〇〇〇〇 二、一二五	二、五〇〇	一、四〇〇
二月	...	二、六二五〇 二、〇〇〇	二、一八七五	一、五〇〇	〇、八七五	一、五六二五 二、二五〇	二、一二五	二、三八〇	一、六五〇
三月	...	三、二五〇	二、一二五〇 二、三七五	一、三〇〇	〇、九三七五 一、一二五	二、一二五 一、六二五	二、二五〇 二、一七五	二、一一〇	一、五五〇
四月	一、六二五	三、二五〇 二、七五〇 米	二、一八七五	一、二五〇 一、一八七五	〇、九三七五 一、一八七五	一、一七五 二、〇〇〇	一、九三七五	二、〇五〇	一、五二〇
五月	二、〇〇〇	二、八七五 三、二五〇 +	二、〇六二五 二、一八七五	一、一二五	一、二五〇	二、〇〇〇 二、〇六二五	二、一二五 二、〇〇〇	一、六七〇	一、四九〇
六月	二、五〇〇	三、五〇〇	二、〇〇〇	一、二五〇 一、〇六二五	一、三二五 一、五六二五	二、二五〇 二、一八七五	二、〇六二五 二、二五〇	一、七三〇	一、五一〇
七月	二、五〇〇	三、三七五 三、五〇〇	一、〇六二五 一、七五〇	一、〇六二五 一、一八七五	一、五六二五 一、七五〇	二、〇〇〇 一、七五〇	二、三七五 二、五〇〇 二、〇〇〇 二、四三七五	二、〇〇〇	一、六五〇
八月	二、三七五 二、五〇〇	三、五〇〇 三、四三〇	一、七五〇	一、一八七五 一、二五〇	一、六八七五 一、三七五	一、七五〇 二、	...	一、九〇〇	一、四九〇
九月	二、七五〇	三、三七五 三、一二五	一、六二五 一、五〇〇	一、二五〇 一、一八七五	一、三二五 一、二五〇	二、三二五 二、二五〇	...	一、五五〇	一、四三〇
十月	三、五〇〇	三、〇〇〇 二、五〇〇 二、〇〇〇	一、五〇〇 一、三七五	一、〇〇〇 〇、九三七五	一、二五〇 一、三七五	二、一七五 二、二五〇	...	一、二五〇	一、三四〇
十一月	四、〇〇〇	一、八七五 二、〇六二五	一、二五〇 一、三七五	〇、八七五 〇、八二五	一、二五〇 一、一八七五	二、一二五 二、〇六二五	...	一、三〇〇	一、四一〇
十二月	三、二五〇	二、一二五 二、二五〇	一、三七五	〇、九三七五 一、〇〇〇	一、三七五	二、〇六二五 二、〇〇〇	...	一、三八〇	一、五七〇

附言 米印八千八百七十年四月中米、輸出ヲ禁セシ時ナリ
 十印八千八百七十年五月中米、輸出ヲ解キシ時ナリ
 十印八千八百七十四年六月中日支、間ニ戰乱ヲ起ス、恐アリシ時ナリ
 十印八千八百七十四年十一月中日支、間ニ談判整ヒ平和ニ帰セシ時ナリ
 十印八千八百七十五年七月中大水、アリシ時ナリ

米價一覽表

年	月	米價
和百七十一年	一月	二、四〇〇
和百七十一年	二月	二、八〇〇
和百七十一年	三月	三、〇〇〇
和百七十一年	四月	三、二〇〇
和百七十一年	五月	三、四〇〇
和百七十一年	六月	三、六〇〇
和百七十一年	七月	三、八〇〇
和百七十一年	八月	四、〇〇〇
和百七十一年	九月	四、二〇〇
和百七十一年	十月	四、四〇〇
和百七十一年	十一月	四、六〇〇
和百七十一年	十二月	四、八〇〇

米價一覽表

年	月	米價
和百七十二年	一月	二、四〇〇
和百七十二年	二月	二、八〇〇
和百七十二年	三月	三、〇〇〇
和百七十二年	四月	三、二〇〇
和百七十二年	五月	三、四〇〇
和百七十二年	六月	三、六〇〇
和百七十二年	七月	三、八〇〇
和百七十二年	八月	四、〇〇〇
和百七十二年	九月	四、二〇〇
和百七十二年	十月	四、四〇〇
和百七十二年	十一月	四、六〇〇
和百七十二年	十二月	四、八〇〇

米價一覽表

年	月	米價
和百七十三年	一月	二、四〇〇
和百七十三年	二月	二、八〇〇
和百七十三年	三月	三、〇〇〇
和百七十三年	四月	三、二〇〇
和百七十三年	五月	三、四〇〇
和百七十三年	六月	三、六〇〇
和百七十三年	七月	三、八〇〇
和百七十三年	八月	四、〇〇〇
和百七十三年	九月	四、二〇〇
和百七十三年	十月	四、四〇〇
和百七十三年	十一月	四、六〇〇
和百七十三年	十二月	四、八〇〇

第五号 一

千八百七十八年間三菱汽船ヲ以テセシ新潟港輸入貿易表

品名	額	量	價格
農具	ケース	八	二三八〇
ブラシ	ケツト	一三	七七五
外国書籍	ケース	一一	二九
日本書籍	ケース	二	一七五
靴類	ク	二	八八
扣鈕	ボックス	七七	六二六
敷物	ペール	三	三九六
車		一	二五〇
木炭	ペール	九四	六八
羅紗	ペール	二	三九〇
外国衣裳類	ケース	三九	一七三六
日本衣裳類	ケース	七	三九
木綿糸	ペール	一一二六	一一〇一六九
印度生綿	ペール	五	五九〇
日本生綿	ク	二〇	二八〇
木綿衣類	ク	一八	二二六五
染料	ク	一〇三	二二八八
外国繻箔物	ケース	一	二〇〇
乾魚	ペール	三〇八九	四九四四

Handwritten notes and bleed-through from the reverse side of the page, including various numbers and characters.

第五号 二

品名	額	量	價格
漆器	バール	一八	九九五
ランプ	ケース	一二	九二
機械	ク	一	一四七六
早附木	ク	七	八二
製葉花 = 葉劑	バール	ル五三	一〇、四九二
牛乳	ケース	五	六八
縮緬吳呂	ク	一	二五〇
釘	ケグ	一五〇	一三〇〇
繪具	チン	七七	二八三
紙	バール	四六八	四七九七
外国雜織物類	ケース	五	三六〇
日本同	ク	二一	一六〇二
樹木類	ク	四	一三〇
陶器	ク	二	四九
馬具	ク	一	三〇
昆布	バール	七一	一一七
金巾	ク	二六六	三二九五〇
学校用石板	ケース	六八	六八六
石鹼	ク	二八	一八三

計 割

八三二	八三二
五七四	八三二
六二	八三二
七〇一	八三二
ノノ	八三二
六二六	八三二
六五二	八三二
五二	八三二
八六	八三二
〇五三	八三二
六三六	八三二
八三二	八三二
六二	八三二
〇八二	八三二
北六二二	八三二
八六二二	八三二
〇〇	八三二
四〇四四	八三二

第五号 四

品名	額	量	價	格
鋼 鉄	バーレル	一三〇	五八〇	
暖 爐	ケース	三五	四四五	
廣東製白砂糖	ピコル	一、〇七〇	九五一〇	
日本製黒砂糖	バーレル	二五	三六二	
雜 貨	バツケージ	三三〇	一二、一二四	
糖 菓	ケース	八	一二七	
錫 板	ボックス	一三〇	一、〇六三	
錫	ク	一	八〇	
化粧品	ケース	一一九	三一四一	
玩 物	ク	三	五九	
傘	ク	一八	六九〇	
手 筒	ク	八	三二五	
秩時計英 = 掛時計	ク	七	三八一	
外国製酒類	ク	二五六	二、三〇八	
日本製酒	ク	九二	六七七	
外国雜品	ク	八二	二〇八二	
日本同	ク	...	一四〇	
輸 入 合 計			二五	三、九七六

計 算	
八、五二四	
五、〇二一	
八、四〇一	
六、三一一	
四、二一一	
〇、八六一	
一、〇六三	
八〇	
三、〇五一	
六、〇四〇	
六、五二一	
三、二五一	
〇、四一一	
八、四一六	
六、五七一	
二、〇八二	
一、四〇	
二、五	
三、九七六	

第六号

千八百七十八年間三美汽船ナ以テセシ新潟港輸出貿易表

品名	額	量	價格
アルコホール	ケース	二五	二〇〇四
書籍	ク	一〇	七九〇
蠟燭	ク	六	二一
大工用道具	ク	一	一四三
履物	ベール	三六	八四〇
履物緒	ク	一	五
衣裳類	ク	三二	一八三三
銅	—	一	七一一八
木綿織物	—	四	二六八
葉剤兵製葉	—	六四	一四二〇
茶料	ケース	二	四〇
塩魚	ベール	二	二
乾魚	ク	二	一〇二
魚網	ク	一五	一八〇
麩粉	ク	一三四	四三一
家具	ケース	二二	四三九
鉄器	ベール	九三八	九二六八
麻	ク	一七	八〇九
鉄塊	パッケージ	二二	七七五
鉄板	ク	三二	二一〇

計	額
〇八五	〇
五四四	五
〇一五	〇
二六三	二
四二一	四
八二一	八
三六〇	三
〇八	〇
一四一	一
五五	五
〇五	〇
五二三	五
一八三	一
八〇三	八
五五	五
二八〇	二
〇四一	〇
六五	六

第六号 二

品名	額	量	價	拾
漆	バーレル	六〇	二〇	四四
漆	ケース	六二	一七	九〇
梨	〃	一六四	二	一一二
石炭油	〃	六〇	一	六五
織物	〃	二九	二	三八九
樹木	ノンブル	四五		四〇
陶器	バーレル	二九	二	八三
芋	〃	六七	一〇	二
糖菓	バーレル	一〇五	一〇	七
米	—	—	八四	六六〇
酒	バーレル	八		八
硝石	ミール	一六	二〇	〇
生糸	〃	三	一	二〇〇
足袋	〃	五	三	三〇
醬油類	バーレル	一五		二五
雜高品	パッケージ	一六六	一	二〇九〇
茶	—	—	二四	三八八
木材	ロゲ	一八		九五
化粧品	ケース	六	一	五七
素麵	〃	六〇	一	六五
雜品	—	—	一	六四九
輸出合計			一九	三九八五

Handwritten notes and a faint table on the right page, including the characters '計' and '計'.

第八号

左
水，三年同新潟縣下(佐渡島ヲ除キ)，毎年諸物産等概算高比較表

	千八百七十一年		千八百七十五年		千八百七十六年	
	高	價格	高	價格	高	價格
米 其他，諸穀類						
千八百七十一年全價	三九二〇,〇〇〇					
千八百七十五年全價	五,一五七,〇〇〇					
千八百七十六年全價	五,九八六,九〇〇					
上 米			一,一七三,〇〇〇	一,九五八,七〇〇	一,一八九,〇〇〇	一,九八九,一〇〇
中 米	ピコル	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一,〇二一,一〇〇	一,三五〇,六〇〇	一,〇九四,七〇〇
下 米			八三一,七〇〇	一,〇五〇,〇〇〇	一,〇三九,七〇〇	一,一八八,九〇〇
其他，諸穀類		一八〇,〇〇〇	五二〇,〇〇〇	六六〇,〇〇〇	七六六,四〇〇	一,三〇九,三〇〇
茶						
千八百七十一年全價	九五四,〇〇〇					
千八百七十五年全價	七一九,〇〇〇					
千八百七十六年全價	九七九,〇〇〇					
上中茶	ポンド	三四八,三〇〇	五四〇〇	二八七,五〇〇	六七,〇〇〇	三九五,〇〇〇
下 茶				八〇,〇〇〇	八,五〇〇	一一〇,〇〇〇
生 糸						
千八百七十一年全價	八〇,〇〇〇					
千八百七十五年全價	一四九,四六〇					
千八百七十六年全價	一九九,九〇〇					
生 糸	セコル			二七五	一三四,七六〇	三一八
熨斗糸		二〇〇	八〇,〇〇〇	一九	二,二〇〇	六
真 綿				四五	一,二〇〇	一九五
屑 糸	マダラ			一三〇	六,三〇〇	一五〇
蚕卵紙	ソブル			三四,三一三	一七,八〇〇	二六,七三九
絹 糸					四八〇	二一,五〇〇

同平至
結算日
...

第八号

		千八百七十一年		千八百七十五年		千八百七十六年	
		高	價格	高	價格	高	價格
繭							
千八百七十五年全價	一五七、一六〇						
千八百七十六年全價	一九四、〇三〇						
蛹	ピコル			八、九九〇	一、五六〇〇〇	七、八八〇	一、九三六〇〇
壳 蛹	ク			二七〇	九〇〇	四〇	二五〇
屑 蛹	ク				二六〇		一八〇
銅	ク	五〇〇	八、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇〇	二、九〇〇	三、二〇〇〇
油 類							
千八百七十一年全價	一〇〇、〇〇〇						
千八百七十五年全價	五七、四二〇						
千八百七十六年全價	一九、四二〇						
石炭油	ガルロン	一一、一七〇〇	〇、〇〇〇	一、七六二〇〇	三〇、〇〇〇	三、九九五〇〇	七六、〇〇〇
菜種油	ク		八、〇〇〇〇			九、九八〇	八、九一〇〇
其他ノ諸油	ク					一、七八四〇	五、四三二
烟 草	ピコル	四、五〇〇	一、〇〇〇〇	六、七二五	四、八一〇〇	九、九〇〇	八〇、六〇〇
石 炭				六、〇〇〇	一、五〇〇	一〇、〇〇〇	三、五〇〇
木綿類							
千八百七十五年全價	八、九八〇				一、二三四〇		四、〇〇〇
千八百七十六年全價	一、三三〇						
主 綿							
綿 花 (機械=テ綿子ヲ去リタルモノ)					四、九〇〇		一〇、一〇〇
木綿糸					二、四七八〇		三、七七〇
木綿繅糸							九〇〇

表録の高年

千八百七十六年	千八百七十五年	千八百七十四年	千八百七十三年
計 高	計 高	計 高	計 高
一、九三六〇〇	一、九三六〇〇	一、九三六〇〇	一、九三六〇〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
一八〇	一八〇	一八〇	一八〇
三、二〇〇〇	三、二〇〇〇	三、二〇〇〇	三、二〇〇〇
七六、〇〇〇	七六、〇〇〇	七六、〇〇〇	七六、〇〇〇
八、九一〇〇	八、九一〇〇	八、九一〇〇	八、九一〇〇
五、四三二	五、四三二	五、四三二	五、四三二
八〇、六〇〇	八〇、六〇〇	八〇、六〇〇	八〇、六〇〇
三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇
四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
一〇、一〇〇	一〇、一〇〇	一〇、一〇〇	一〇、一〇〇
三、七七〇	三、七七〇	三、七七〇	三、七七〇
九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇

第八号 三

	千八百七十一年		千八百七十五年		千八百七十六年		
	高	價格	高	價格	高	價格	
織物類							
千八百七十一年全價		一三九五九〇 <small>非</small>					
千八百七十五年全價		六二四一〇〇					
千八百七十六年全價		八六六三一〇					
絹	ビース	一〇〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	一九八〇	九二〇〇	九六,〇〇〇	一八九一〇〇
絹綿交織帽子			三三〇〇		六二〇		二九六〇〇
絹縫箱	ビース			九〇,七四〇	一二三,五二〇	二四〇,六〇	八二,七七〇
綿織物	ク	四九〇〇	二六〇〇	九一〇,〇〇〇	三一六,四七〇	九三〇,四四〇	四四九,〇五〇
絹綿交織物	ク			一一一,八六〇	一一二,六〇〇	三七〇	一六二〇
縮	ク	五〇〇,〇〇〇	一一〇〇,〇〇〇	七一一〇	一四,四三〇	六三,〇三〇	一〇一,三二〇
麻衣類	ク			三八〇一〇	二四,九〇〇		
麻綿交織物	ク			一五〇〇	一一六〇	四二〇	三一〇
木綿股引	ク			一四,一九〇	五七〇〇	五〇,八三〇	一〇,九四〇
雜貨			一〇,〇〇		五九〇〇		五九〇〇
竹器 <small>筭</small> = 籐器					一三,四三二		一一,〇四六
蠟燭			一〇,〇〇〇		六三,七一〇		七〇,四八〇
履物				七八六,一三八	二九,七八	七八八,七八〇	二四,五六〇
履物緒				一一一,九九三	二,三三二	一〇,六〇二〇	一一,三二
戸障子類					六九,九九六		九三,四四五
葉劑 <small>茶</small> = 製葉					二一,七二		二,六〇
鴨類					一三,三七三		一〇,二三〇
染料					一五,八四二		一八,三〇六
玉子					二六,七二〇		一一,二六八
團扇				四二,九八三	三二四	三六,〇一〇	二一

千八百七十一年全價

品名	高	價格
絹	九六,〇〇〇	一八九一〇〇
絹綿交織帽子	二九六〇〇	
絹縫箱	八二,七七〇	
綿織物	四四九,〇五〇	
絹綿交織物	一六二〇	
縮	一〇一,三二〇	
麻衣類		
麻綿交織物	三一〇	
木綿股引	一〇,九四〇	
雜貨	五九〇〇	
竹器 = 籐器	一一,〇四六	
蠟燭	七〇,四八〇	
履物	二四,五六〇	
履物緒	一一,三二	
戸障子類	九三,四四五	
葉劑 = 製葉	二,六〇	
鴨類	一〇,二三〇	
染料	一八,三〇六	
玉子	一一,二六八	
團扇	二一	

千八百七十五年全價

品名	高	價格
絹	一八〇,〇〇〇	一九八〇
絹綿交織帽子	三三〇〇	六二〇
絹縫箱	九〇,七四〇	一二三,五二〇
綿織物	九一〇,〇〇〇	三一六,四七〇
絹綿交織物	一一一,八六〇	一一二,六〇〇
縮	七一一〇	一四,四三〇
麻衣類	三八〇一〇	二四,九〇〇
麻綿交織物	一五〇〇	一一六〇
木綿股引	一四,一九〇	五七〇〇
雜貨	一〇,〇〇	五九〇〇
竹器 = 籐器		一三,四三二
蠟燭	一〇,〇〇〇	六三,七一〇
履物	七八六,一三八	二九,七八
履物緒	一一一,九九三	二,三三二
戸障子類		六九,九九六
葉劑 = 製葉		二一,七二
鴨類		一三,三七三
染料		一五,八四二
玉子		二六,七二〇
團扇	四二,九八三	三二四

千八百七十六年全價

品名	高	價格
絹	九六,〇〇〇	一八九一〇〇
絹綿交織帽子	二九六〇〇	
絹縫箱	八二,七七〇	
綿織物	四四九,〇五〇	
絹綿交織物	一六二〇	
縮	一〇一,三二〇	
麻衣類		
麻綿交織物	三一〇	
木綿股引	一〇,九四〇	
雜貨	五九〇〇	
竹器 = 籐器	一一,〇四六	
蠟燭	七〇,四八〇	
履物	二四,五六〇	
履物緒	一一,三二	
戸障子類	九三,四四五	
葉劑 = 製葉	二,六〇	
鴨類	一〇,二三〇	
染料	一八,三〇六	
玉子	一一,二六八	
團扇	二一	

第八号 五

	千八百七十一年		千八百七十五年		千八百七十六年	
	高	價格	高	價格	高	價格
麻 紐				一三〇、四八〇		九七、四六〇
麻 繩				五六、三七〇		三九、
漆		一六、〇〇〇		三、五二〇		四、一六
漆器類		二七、〇〇〇		六九、四二〇		九三、五七〇
柔 皮		一八、〇〇〇				
柔皮製品				六、四六〇		七、三九〇
肥 料		四〇、〇〇〇		一一、九六六〇		一九、五〇〇〇
壘 表	ノンブル	一〇、〇〇〇	三、五〇〇	二二〇	五、四八九〇	一一、七〇〇〇
菌 類				二、一五〇		二、八二〇
釘 元 = 鉄器				三〇、〇〇〇		五〇、〇〇〇
紙						
千八百七十一年全價		九、〇〇〇				
千八百七十五年全價				二二、六八〇		
千八百七十六年全價				四七、一九〇		
並 紙				三、七〇〇		三三、七七
桐油紙				一九、九八〇		一三、四二〇
陶器類				一三、二九〇		一一、六九〇
桐油衣	ノンブル	二、五〇〇	一、五〇、三七	一、四、一二〇	一一、七、五九〇	七、七二〇
蒲製雨帽子			八、九六〇	三、一二〇	七、八二〇	二、九〇〇
鞞					三三二	二、二〇〇
昆 布				九七〇		三、五五〇
棕 繩				二、三、三九〇		三、二、四九〇
皮 類		四、九〇〇		一、三〇〇		一、九五〇
木 柱 類				四、七、一三〇		二、九、一〇〇

年	計	計
千八百七十六年	九三、五七〇	九三、五七〇
千八百七十五年	二二、六八〇	二二、六八〇
千八百七十一年	九、〇〇〇	九、〇〇〇
合計	一二五、二五〇	一二五、二五〇

第九号 一

左ノ
火 年間新潟縣下裁判事件一覽表

民 事

	千八百七十五年	千八百七十六年	千八百七十七年	千八百七十八年
	訴訟 負數	訴訟, 負數	訴訟, 負數	訴訟, 負數
裁判所	六、九四八	三、一八三	一、三〇六	八、一六
支 廳	二、〇九九	五、一七七	一、〇四九	二、八四
區裁判所	-	-	四、九四九	二、二八〇
合 計	八、六四七	八、三六〇	六、九〇〇	三、三八〇
民事ヨリ終ニ刑事廻リニナリタル分	五八	一九	五	九

勸 解

	千八百七十五年	千八百七十六年	千八百七十七年	千八百七十八年
	訴訟, 負數	訴訟, 負數	訴訟, 負數	訴訟, 負數
裁判所	-	-	-	-
支 廳	-	六、四三		
區裁判所	-	-	二、四一	一、〇九三

和調 九、五二八
不調 一、一一九

和調 二、〇九
不調 三、二〇二

和調 四、〇八
不調 一、五三〇

但シ千八百七十五年間ノ分ハ報告ヲ得ルニナリ蓋シ此勸解ノ事件ハ概シテ
小事ニ係リシヲ以テ最前ニハ支廳ニ於テ裁判セシカ千八百七十七年ニ至リ區
裁判所ヲ設置シ爾來區裁判所ニ於テ此等ノ事務ヲ管理スルコトハナリタリ

第九号ノ二

外國人原告ノ民事

	千八百七十五年	千八百七十六年	千八百七十七年	千八百七十八年
裁判所	訴訟ノ負數 一〇	訴訟ノ負數 .	訴訟ノ負數 .	訴訟ノ負數 .

民事控訴

裁判所ヨリ	三	九	二	三
支廳ヨリ	.	一	二	一
區裁判所ヨリ	.	.	九	八
合計	三	八	二〇	二

身代限リノ渡ノ分

	裁判所ニ於テ				支廳ニ於テ				區裁判所ニ於テ				合計			
	七十五年	七十六年	七十七年	七十八年	七十五年	七十六年	七十七年	七十八年	七十五年	七十六年	七十七年	七十八年	七十五年	七十六年	七十七年	七十八年
債主ノ負數	三三六	五九六	一三	二六	二九	六二	一	九	一三九	四四	三六	一三〇	二四一	七九		
身代限リ中渡ノ負數	一三七	一九一	一	二九	三	二六	〇	九	一四〇	四九	四〇	四一	二四六	七九		
負債ノ高	(四) 九八四六二	二九三三四	一三三三	七〇三四	三三六	六九三六	一五二六	一五二八	一八三〇	九一六九	六四三三	六八五七	一七〇六	三三六		
家産有ノ高	(四) 六七三	二七六八	九一七	四五九	一六	九二〇	九二〇	三三〇	一四三	一三六	六八	三六八	一六二四	二〇二		

但シ前書數年向ノ身代限中身代限申渡ノ負債高ト家産有ノ高トノ同額ナリシ
モルハ千八百七十七年ノ年末ニ一件アリシニ而已乃チ六日町區裁判所ノ訴ノ出
タルニ十七日ノ請求是レナリ

米ノ印三ノ外人ヨリ訴ヘシハ百九十二圓ノ一口
アリ被告身代限リノ上四圓五十錢ノ分産全ヲ
得タリ

千八百七十八年 千八百七十九年
...

千八百七十八年 千八百七十九年
...

...

第九号，三
刑事及警察處分

	千八百七十五年 六月ヨリ十二月三十一日		千八百七十六年		千八百七十七年		千八百七十八年 自一月至六月三十一日	
	懲罰	譴責	懲罰	譴責	懲罰	譴責	懲罰	譴責
裁判所	九〇〇	九〇〇	一、二五三	一、六四四	五三〇	八六一	三四九	四二一
支廳	-	-	一、六〇五	二、四九八	四〇六	五七七	一六三	二一一
區裁判所	-	-	-	-	三、一二九	三、九三六	一、四八六	一、九一四
合計	九〇〇	九〇〇	二、八五八	四、一四二	四、〇六五	五、三七四	一、八九八	二、五四六

裁判所支廳及區裁判所ニ於テ申渡セシ懲罰

	一ケ年以下		一ケ年ヨリ 五ケ年マデ		五ケ年ヨリ 十ケ年マデ		終身		斬罪		棒鎖		暗室	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千八百七十五年自七月至十二月	五七一	七六	一〇	-	一五	-	三	-	-	-	-	-	-	-
千八百七十六年	二、〇五一	二、九七	一一	二	二七	-	三	-	三	-	-	-	-	-
千八百七十七年	一、一九一	二、六三	三三	四	三九	三	七	-	五	-	五	-	一	-
千八百七十八年自七月至十二月 *	二、一四	四六	三	一	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*、印、諸支廳及區裁判所ニ於テ申渡セシ分ニ係ル裁判所ノ分ニ
目下其報告ヲ得ルニ由ナシ

第十号
晴雨報告 (千八百七十二年 / 分)

	寒	暖	計	風 (日数)								晴雨 (日数)						降雨						
				最上点	最下点	平均	南	西南	西	西北	北	東北	東	東南	静和	晴天	雨天	風天	暴風	暴雨	雪霰	暴雪	雷鳴	地震
一月	六	六	0.10	二	一	一	九	六	二	一	一	一	二	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二月	五	四	0.11	四	五	四	六	四	二	一	一	三	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三月	一	三	三.42	六	五	二	四	五	三	一	一	一	五	九	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四月	一	一	六.41	五	四	二	二	一	三	一	一	一	一	八	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五月	二	一	七.19	四	八	五	二	七	三	一	一	二	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六月	二	一	一.六二	三	四	四	一	一	三	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七月	二	一	二.07	七	三	五	四	五	六	一	一	一	二	四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八月	二	一	六.06	二	七	四	一	一	三	一	一	一	一	六	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九月	二	一	二.七四	七	八	五	二	九	五	一	一	一	二	三	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十月	二	一	七.19	七	八	八	六	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十一月	一	七	七.六八	三	九	五	六	二	四	一	一	一	一	六	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十二月	一	一	三.七二	五	六	八	三	四	二	一	一	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(千八百七十三年 / 分)

一月	六	三	0.88	三	四	四	八	六	三	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二月	九	七	0.35	二	五	四	七	四	三	一	一	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三月	一	四	三.六七	九	三	四	一	二	三	一	一	一	二	一	五	二	一	一	一	一	一	一	一	一
四月	一	九	二.九五	四	一	二	四	一	一	一	一	一	四	二	六	三	一	一	一	一	一	一	一	一
五月	二	三	四.三二	四	一	四	三	七	三	一	一	一	七	二	五	四	一	一	一	一	一	一	一	一
六月	二	三	九.六六	八	一	三	一	一	四	一	一	一	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七月	二	七	一.九七	二	六	一	二	九	一	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八月	二	九	一.六二	五	九	二	一	一	九	一	一	一	二	一	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九月	二	四	一.七九	二	二	二	一	一	二	六	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十月	一	九	九.一三	四	六	一	六	九	二	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十一月	一	三	一.六二	七	七	七	二	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十二月	一	一	四.三〇	五	一	一	六	六	二	一	一	一	一	九	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一

千八百七十二年 / 分

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二

其二

(千八百七十四年，分)

	寒	暖	計	風 (日 數)								晴 雨 (日 數)						降 雨						
				最上点	最下点	平 均	南	西南	西	西北	北	東北	東	東南	靜和	晴天	雨天	風天	暴風	暴雨	雪霰	暴雪	雷鳴	地震
一	月	六	一	二二四	六	二	八	七	三	二	二	三	一	六	七	二	一	一	五	一	二	二	二	二
二	月	九	一	三〇五	六	一	三	五	一	二	二	一	七	四	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	月	一	一	四八五	四	二	四	三	一	四	二	二	一	五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
四	月	一七	三	一〇〇八	一	二	一	一	四	三	四	一	三	三	三	二	一	二	二	二	二	二	二	二
五	月	二	六	一二五	五	二	四	三	一	三	二	一	二	二	四	一	二	二	二	二	二	二	二	八
六	月	二	一〇	一七〇六	二	七	一	二	五	二	二	二	六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	八
七	月	二六	一三	一九〇三	二	四	四	一	九	九	一	一	二	四	五	二	二	二	二	二	二	二	二	八
八	月	二七	一五	二〇九一	五	四	七	二	八	二	二	二	二	七	一	一	二	二	二	三	二	二	二	八
九	月	三	一	二六二九	四	二	四	三	七	四	三	一	二	〇	七	一	一	二	二	二	二	二	二	八
十	月	一	五	一六二	四	一	二	二	七	四	二	一	二	〇	六	二	二	三	二	二	二	二	二	八
十一	月	一	一	六七四	六	八	二	五	四	二	一	二	一	五	八	二	二	四	一	二	二	二	二	八
十二	月	八	一	三七四	五	七	四	六	四	三	二	二	一	五	七	二	二	五	二	二	二	二	二	八

(千八百七十五年，分)

一	月	六	二	一四四	四	五	四	九	七	二	一	一	二	四	四	二	一	六	四	二	二	二	二	五
二	月	八	五	〇九七	二	三	四	一	七	二	一	二	八	二	四	二	一	九	六	二	二	二	二	五
三	月	一	二	五三五	三	五	一	八	二	二	三	一	二	〇	五	三	二	二	二	二	二	二	二	五
四	月	一七	二	七五二	一	九	五	九	七	二	一	二	一	五	四	四	一	七	二	二	二	二	二	五
五	月	一	九	一一三二	四	二	七	八	六	一	二	一	二	一	九	五	五	二	二	二	二	二	二	五
六	月	二	五	八一九	一	二	四	六	一	二	二	二	一	二	〇	五	二	三	二	二	二	二	二	五
七	月	二五	一	一八一三	二	四	一	一	二	一	二	二	一	六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	五
八	月	二七	一	二〇二一	五	三	四	三	六	五	一	二	二	九	五	一	二	二	二	二	二	二	二	五
九	月	二	三	一七一八	七	三	一	六	一	〇	二	一	二	二	六	一	二	二	二	二	二	二	二	五
十	月	一	八	一二二九	五	四	三	四	九	二	二	一	一	九	九	一	二	二	二	二	二	二	二	五
十一	月	一	六	六六一	九	六	二	六	四	二	一	二	一	七	七	二	二	二	二	二	二	二	二	五
十二	月	九	七	三三九	九	九	六	八	六	一	二	二	一	五	四	二	二	五	一	四	二	二	二	五

其三

(千八百七十六年，分)

		寒 暖 計			風 (日 數)								晴 雨 (日 數)						降 雨					
		最上点	最下点	平 均	南	西南	西	西北	北	東北	東	東南	静和	晴天	雨天	風天	暴風	暴雨	雪霰	暴雪	雷鳴	地震	降雨	(センチメートル)
一	月	六三	二三	一三二	一	四	一	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	月	八五	一	二一三	五	二	五	二	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	月	一二	二	四一九	六	三	七	七	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	月	一四六	一七	八〇五	四	一〇	二	一〇	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	月	二二一	五三	一三二〇	六	三	四	六	五	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	月	二二三	九	一五〇七	四	一	四	三	六	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	月	二八七	一六五	二一五八	六	一	四	四	八	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	月	二九三	一七七	二三四五	三	二	三	六	一五	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	月	二八	一一一	一七九九	六	二	一	三	八	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十	月	二〇四	六二	一一六八	四	三	二	五	五	六	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十一	月	一五五	二六	六七九	五	三	六	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十二	月	一〇二	一	四一一	八	四	四	八	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(千八百七十七年，分)

一	月	九三	〇八	三五	八	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	月	一一一	一三	三	七	一	四	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	月	一二四	〇八	四八	九	三	五	四	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	月	二四	二二	九九	一四	六	一	二	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	月	二一七	六六	一三三	四	一	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	月	二九三	八八	一七三	七	二	八	四	四	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	月	二六六	一五一	二一六	一〇	三	九	一	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	月	二七一	一八六	二一四	一〇	三	四	四	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	月	二三九	一一五	二一九	五	四	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十	月	二〇四	四八	一一九	一〇	四	八	二	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十一	月	一六	二六	八二	一〇	一	八	四	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十二	月	一一五	〇四	四六	一〇	二	四	四	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

正到 (日)

日	正到	日	正到
一		一	
二		二	
三		三	
四		四	
五		五	
六		六	
七		七	
八		八	
九		九	
十		十	
十一		十一	
十二		十二	
十三		十三	
十四		十四	
十五		十五	
十六		十六	
十七		十七	
十八		十八	
十九		十九	
二十		二十	
二十一		二十一	
二十二		二十二	
二十三		二十三	
二十四		二十四	
二十五		二十五	
二十六		二十六	
二十七		二十七	
二十八		二十八	
二十九		二十九	
三十		三十	

